

Basic research for Dialect teaching material making based on description of present age Dialect

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kato, Kazuo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00034740

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



科学研究費 基盤研究(C)・課題番号 17520295
「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」
研究成果報告書
(研究代表者 加藤和夫)

<方言学習教材シリーズ 2>

みんなで学ぼう！ 大聖寺ことば

2006 年 3 月

監修 加藤 和夫

執筆 加藤 和夫
野田 浩

金沢大学附属図書館



1600-08594-6

加藤和夫 氏寄贈

KAKEN

2006

104

科学研究費 基盤研究(C)・課題番号 17520295
「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」
研究成果報告書
(研究代表者 加藤和夫)

<方言学習教材シリーズ2>

みんなで学ぼう！ 大聖寺ことば

2006年3月

監修 加藤 和夫

執筆 加藤 和夫
野田 浩

金沢大学附属図書館



1600-08594-6

『みんなで学ぼう！大聖寺ことば』正誤表

ページ・行	誤	正
8 ページ・14 行目	◆ なんやろ：なのだろう	この部分は削除
12 ページ・5 行目	たかし：よく 聞こえんかったがや。	たかし：よく 聞こえんかったんや
34 ページ・下から 5 行目	～ることができはます。	～ことができます。
57 ページ・「表」	右の「イ音便化しにくい動詞」欄の「むした（蒸した）」「ちらした（散らした）」「ねざした（根ざした）」	「むした（蒸した）」「ちらした（散らした）」「ねざした（根ざした）」を削除
63 ページ・18 行目	～方言に似た <u>は</u> 京阪式に～	～方言に似た京阪式に～
65 ページ・下から 2 行目	(22)時間あるさけ／～／ <u>書くまっし</u> 。	「書くまっし」は削除

監修のことば一本書を使って下さる皆さんへー

本書『みんなで学ぼう！大聖寺ことば』を手にして下さった皆さんは、大聖寺の方言、あるいは自分が生まれ育った土地の方言についてどのように思っているのでしょうか。もしかしたら、方言に対してどこかで「はづかしい」とか「田舎くさい」といったマイナスのイメージを持てはいないでしょうか。

明治時代になって、日本の国の体制が大きく変わり、日本の国を一つにまとめようとしたとき、江戸時代の幕藩体制を背景に全国で発達した方言が、大きな障害になると考えられました。その結果、学校教育を中心に標準語教育が進められ、それは戦前まで（一部地域では戦後しばらくも）続きました。本土の方言との違いが大きかった沖縄などでは、「方言札」という罰札まで作って、子どもたちに方言を使わせないようにしました。そこで掲げられたスローガンは「方言撲滅」「方言矯正」というものでした。

このような教育を受けたことで、日本人の多くは、方言が共通語（標準語）に比べて劣ったことば、悪いことば、汚いことばであるといった考え方を持つようになりました。そして、地方の人たちは、自分たちの方言にコンプレックスを持ち、自ら進んで方言を捨てようしました。この傾向は1960年代以降のテレビを代表とするマスメディアの発達によってますます強まり、全国各地で方言の衰退が急速に進みました。

確かに、全国どこに行っても通じる共通語は便利で、今の時代には必要なものです。しかし、共通語を覚える（使う）ことと方言を捨てることが同じである必要はありません。私たちは、もしかすると日本語＝共通語と考えてはいないでしょうか。でも、そうではありません。日本語とは、全国に広く通用する共通語と、今もなお全国各地で使われているさまざまな方言との総体であるはずなのです。日本語の豊かさを支えてきたのは共通語だけでなく、方言もまちがいなくその一部なのです。

わが国では、1970年代ころから「地方の時代」などと言われるようになり方言にも目が向けられ始めました。80年代ころになると方言の急速な衰退による危機感も手伝って、全国的に方言見直しの動きがさかんになりました。そして、学校教育においても、国語科や総合学習を中心に、地域の文化の一つとしての方言の価値や役割について学ぶことの大切さが叫ばれるようになりました。

方言のもつ価値や役割にはさまざまなものがありますが、21世紀の日本語の担い手である小・中学生の皆さん、そして先生方には次のことを理解してもらえたらと思います。

- (1) 生活語としての方言の価値
- (2) 方言を理解し、使うことで方言に自信をもち、地域に自信をもつこと
- (3) 方言もまた日本語の豊かさを支えていること
- (4) 地方の文化の一部と考えること

(1)については、この本の内容を学ぶ中で、共通語では表現しにくいこと、別の言い方をすれば方言だからこそ表せることがあることを理解してもらえればと思います。たとえば、大聖寺ことばの「いじくらしい」を共通語でぴったり置き換えられるのでしょうか。本書の中に登場する大聖寺ことばの中には、ほかにもそういうことばがあるにちがいありません。

(2)については、私が1994年から1995年にかけて研究者仲間と全国14都市で方言と共通語に対する意識調査を行い（私は金沢市を担当しました）、その結果を分析する中で強

く感じていたことです。金沢をはじめとして北陸という地域は、全国的に見ても、自分たちの方言に愛着が薄く自信が持てていない地域のように思います。そのことは、地域に対する愛着・自信とも密接な関係があるように思いますが、自分たちのことばをよく知り、自信を持つことが、ひいては共通語との違いをよく知り、共通語の上手な話し手になれるのだと考えてほしいと思います。

(3)についてはすでにご覧のとおりです。方言も大切な私たちの母語、日本語の一部なので、その豊かなバリエーションがすなわち日本語の豊かさそのもののなのです。

(4)については、国語科という科目を離れて総合学習や地域学習の中で感じ取ってもらいたいことのひとつです。ことばも含めて、日本全体が均質化に向かっていることが地方の文化の喪失につながっていることも忘れてはならないと思います。

少しむずかしい話になってしまいましたが、この本は、以上のような思いと願いを込めて、大聖寺生え抜きで元小学校の先生をなさっていた野田浩氏（男性 1932年生まれ）の協力を得て作りました。本書の内容は、加藤が2005年3月に金沢大学大学院教育学研究科（修士課程）の「国語学特論Ⅱ」の受講生の人たちと試作した『＜試作版＞みんなで学ぼう！金沢ことば』がモデルになっています。そしてその試作版は、岐阜大学教育学部国語教育講座助教授の山田敏弘氏が2003年3月に学生さんたちと作った『みんなで使おつけ！岐阜のことばⅠ』（非売品）という、優れた小・中学校向けの方言教材を参考にしたものです。

ここ数年、小・中学校の先生方から方言学習についてのご相談を受けることが多くなり、先生方の参考になるような方言教材の作成を考えていました。そして昨年、金沢のことばを素材とした＜試作版＞を作成したところ、県内の学校関係者、日本語教師、マスコミ等の多くの方々から予想外の評価をいただきました。できれば金沢ことば以外の教材も作成してほしいとの声も聞かれました。

幸い、2005年度・2006年度の2年間、日本学術振興会の科学研究費、基盤研究(C)に加藤の申請した「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」が採用され、この2年間で北陸地方の方言教材作成の機会が与えられました。本書はその研究成果の一部として作成したものです。方言学習に関心をお持ちの先生方、地域学習に関心をお持ちの方等にご利用いただければ幸いです。特に学校の先生方には、本書を参考にご自身の手で独自の方言教材を作成していただけたら嬉しく思います。

＜本書の内容・構成＞

この本は、全体が13課で構成されています。現在の大聖寺地域で使われている方言の中から、基本的かつ特徴的な内容を盛り込むべく努力したつもりです。ただ、大聖寺ことばといっても、そこには世代差、地域差、個人差も当然あります。本書の各課の会話文は、大聖寺の生まれ育ちで本書の研究協力者でもある野田浩氏の協力を得て、70歳前後の大聖寺ことばを想定して作成しました。伝統的な方言の学習、継承という観点から、小中学生の祖父母世代の70歳代前後の方言の記録は、最近の方言衰退の状況の中で貴重な資料となるものです。本書でそうした伝統的な大聖寺ことばを学んでもらい、その後自分たちの方言、さらに親世代の方言へと興味・関心につないでもらいたいと考えました。

各課は4ページ構成とし、1ページ目に会話文とその中に含まれる語句等の語釈、会話

文の共通語訳、2 ページ目に会話文の含まれる重要表現の解説、3 ページ目に重要表現を使いこなすための練習問題、そして 4 ページ目に「大聖寺ことば豆知識」のコラムという内容になっています。会話文中や重要表現の解説中で、同じような意味で表現形が複数ある場合には、それらを／を挟んで併記した。

本書末尾には、参考として「石川の方言と大聖寺ことば一概説」、「同一例文の 3 世代（男女別）大聖寺ことば訳」、そして「参考文献等」を載せました。

最後に、大聖寺ことばの資料提供にご協力いただいた研究協力者の野田浩氏に心より感謝いたします。

本書に対して、多くの皆さん、特に学校の先生方からご意見やアドバイスをいただければと思います。どうぞ本書奥付に記載の連絡先までご連絡下さい。

2006 年 3 月

早春の金沢市角間の里にて

金沢大学教育学部教授

加 藤 和 夫

目 次

監修のことば—本書を使って下さる皆さんへ—	1
＜本書の内容・構成＞	2
目次	4
第1課 わたしバスケ部やよ。	8
会話・ことば 共通語では	8
表現 1. 「～や」—名詞述語の肯定—	9
2. 「～でない」「～でねー」—名詞述語の否定—	9
3. 「～やろ」—推量—	9
練習問題	10
大聖寺ことば豆知識① これって方言！？(1)	11
第2課 明日の集合、何時け？	12
会話・ことば 共通語では	12
表現 4. 「～け」—疑問—	13
5. 「～てくれっけ」—依頼—	13
6. 「いいけ」—許可要求—	13
練習問題	14
大聖寺ことば豆知識② これって方言！？(2)	15
第3課 風邪ひいてもたんや。	16
会話・ことば 共通語では	16
表現 7. 「～んや」「～んじゃ」—「～のだ」—	17
練習問題	18
大聖寺ことば豆知識③ 苦しさを表す方言	19
第4課 宿題せんと寝たんやって。	20
会話・ことば 共通語では	20
表現 8. 「～ん」—動詞の否定形—	21
9. 「～なんだ」「～んだ」—過去形の否定—	21
10. 「～んよんなる」「～んのんなる」—変化の否定—	21
11. 「なーも＋否定」—全く～ない—	21
練習問題	22
大聖寺ことば豆知識④ だら	23
第5課 21世紀美術館行ってきたうえー。いいじえー。	24
会話・ことば 共通語では	24

表現 12. 「～じゃ(一)」—予想・期待に反することに対する意外な気持ち—	25
13. 「～うえ(一)」—情報・認識の共有—	25
練習問題	26
大聖寺ことば豆知識⑤ 意味の理解しにくい方言、誤解されやすい方言	27
第6課 おもっしえやろ？ ほーやねー。	28
会話・ことば 共通語では	28
表現 14. 「ほーや」「そーや」—肯定的応答詞—	29
15. 「なーも」「なーもや」—否定的応答詞—	29
16. 「ほれ」「それ」—代名詞的指示詞—	29
練習問題	30
大聖寺ことば豆知識⑥ 変化する大聖寺ことば—世代差のある表現—	31
第7課 気一つけて行きねーや。	32
会話・ことば 共通語では	32
表現 17. 「～ね」「～ねー」—軽い命令・勧誘—	33
18. 「～さ」—勧誘の表現—	33
練習問題	34
大聖寺ことば豆知識⑦ 接頭辞と接尾辞のいろいろ	34
第8課 どいてま。ちょっこり待つてま。	36
会話・ことば 共通語では	36
表現 19. 「～ま」「～まん」—強意の終助詞—	37
20. 「～ないかん」「～ねえかん」—義務—	37
21. 「～たらいかん」—禁止—	37
練習問題	38
大聖寺ことば豆知識⑧ 促音化	39
第9課 寒いさけうちんなか入っとろさ。	40
会話・ことば 共通語では	40
表現 22. 「～さけ」—原因・理由—	41
23. 「～んやに」「～んにやに」「～んじゃに」—逆接—	41
24. 「～あ」—一般的な条件・順接の仮定条件—	41
練習問題	42
大聖寺ことば豆知識⑨ 気候と方言	43
第10課 はよらとどこ行くんけ？	44
会話・ことば 共通語では	44
表現 25. 「～らと」—「形容詞+に」—	45

26. 「～ない」「～ね」—形容詞の否定形—	45
27. 「～て」—形容詞のテ形—	45
28. 「～なけな」「～なけらな」—形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」—	45
練習問題	46
大聖寺ことば豆知識⑩ 大聖寺方言のオノマトペ	47
第11課 食べれるわいや。	48
会話・ことば 共通語では	48
表現 29. 「食べれる」—一段活用・カ変動詞の可能動詞形—	49
練習問題	50
大聖寺ことば豆知識⑪ ゆれるイントネーション	51
第12課 まだ袋に入っとるさけ、だんねやろ。	52
会話・ことば 共通語では	52
表現 30. 「～とる」—動作の持続と結果の残存—	53
31. 「～とく」—準備・措置—	53
32. 「～ても」—残念・完了—	53
練習問題	54
大聖寺ことば豆知識⑫ 新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）	55
第13課 みそ汁こぼいても一た。	56
会話・ことば・共通語では	56
表現 33. 「出いた」—サ行五段動詞のイ音便化—	57
練習問題	58
大聖寺ことば豆知識⑬ てんぼな	59
付録1：石川の方言と大聖寺ことば—概説—	60
ちょっこり難しいんやけど、読んでみてま！	
1. 全国の方言から見た石川の方言の位置	60
2. 加賀の方言	60
3. 能登の方言	61
4. 金沢ことば	62
5. 大聖寺ことば	63
付録2：同一例文の3世代（男女別）大聖寺ことば訳	64
◇石川の方言（大聖寺ことば）について学ぶための参考文献◇	68
◇方言について学ぶための参考文献◇	69

第1課 わたしバスケ部やよ。

会 話

たかし：つよし、中学 行ったら 何部 入るけ？
つよし：卓球部やよ。たかしも 卓球部やろ？
たかし：卓球部でねーよ、野球部や。ゆうこは 何部や？
つよし：バドミントン部やろ。前 ゆーとったさけ。
たかし：ほーなんや。知らなんだ／知らんだ。
ゆうこ：ちがうって、わたし バスケ部やよ。
つよし：前、バドミントンやって ゆーとったやろ？
ゆうこ：気ー 変わったんやって。

こ と ば

- ◆ 入るけ？：入るの？
- ◆ ほーなんや：そうなんだ。
- ◆ なんやろ：なのだろう。

共通語では

たかし：つよし、中学校に行ったら何部に入るの？
つよし：卓球部だよ。たかしも卓球部だろう？
たかし：卓球部ではないよ、野球部だ。ゆうこは何部だい？
つよし：バドミントン部だろう。前に言っていたから。
たかし：そうなんだ。知らなかった。
ゆうこ：違うって、わたしはバスケ部だよ。
つよし：前にバドミントンだって言っていただろう？
ゆうこ：気が変わったんだよ。

表 現

1. 「～や」一名詞述語の肯定—

- | |
|---|
| (1) あの 子も 卓球部 や 。(あの子も卓球部だ。) |
| (2) あの 先生は 大聖寺出身 や 。(あの先生は大聖寺出身だ。) |

共通語の「～だ」にあたる言い方は、大聖寺ことばでは「～や」となります。「～や」だけでも使いますが、「～やわ」「～やぞいね」「～やがいね」「～やわいね」などいろいろな組み合わせで使います。若い人（特に女性）は「～やよ」という言い方も使います。男性では「～やわいや／～やがいや」も使われる。

2. 「～でない」「～でねー」一名詞述語の否定—

- | |
|---|
| (3) あの 子、卓球部 でないよ／でねーよ 。(あの子、卓球部ではないよ。) |
| (4) あの 先生、大聖寺出身 でねーわ 。(あの先生、大聖寺出身ではないよ。) |

共通語の「～ではない」にあたる大聖寺ことばは「～でない、～でねー」です。「よ」「わ」とあわせて使うと、「～でないよ」「～でないわ」ですが、あいだをのばして「～でねーよ」「～でねーわ」という言い方もよくみられます。

若い人は「～じゃない」「～じゃねーよ」「～じゃねーわ」という言い方をよく使います。

3. 「～やろ」—推量—

- | |
|--|
| (5) あの子どもたぶん卓球部 やろ 。(あの子どもたぶん卓球部だろう。) |
| (6) あの先生、大聖寺出身 やろー 。(あの先生、大聖寺出身だろう。) |

はっきり分からないけれどもたぶんそうであるということを言うとき、大聖寺ことばでは「～やろ」を使います。後ろをのばして「やろー」とも言います。

また、文末を上昇調のイントネーションで疑問の意味でもよく使います。

- (7) あの先生、大聖寺出身**やろ？**

練習問題

練習1 下の文を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：あの子、テニス部 → あの子はテニス部や／やわ／やよ。

(1) 田中さん、高校生 →

(2) あたしの 妹、2年生 →

(3) 森本先生、大聖寺出身 →

★「～でないよ、～でないわ、～でねーよ、～でねーわ」を使っても、練習してみましょう。

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

やろ	や	でないよ／でねーよ
----	---	-----------

(1) 生徒A：森本さんは／な 先生なんけ？

生徒B：そや／ほや、先生_____。（そうだ、先生だ。）

生徒A：泉さんも 先生なんけ？

生徒B：なーも、泉さんは 先生_____。（ううん、泉さんは先生ではないよ。）

(2) すぐ 来る_____。（すぐ来るだろう）

(3) あの 女優、この 町の 出身_____？（あの女優、この町の出身だろう？）

大聖寺ことば豆知識①

これって方言！？(1)

方言の中には、それを話している人たちが方言だと気づかずに使っているものがあります。大聖寺ことばでは、「あたる」「りくつな」「ひどい」「かたい」「たからな」「うまそな」「じゃまねー」「きのどくな」「おきのどくな」「くどい」などが挙げられます。

このうち、「あたる」「ひどい」「かたい」「うまそな」「きのどくな」「おきのどくな」「くどい」などは共通語でも使われますが、大聖寺ことばでは共通語とは異なる意味でも使われています。

例を挙げてみましょう。

「終業式の日も、給食があたるんやと。」（あたる＝もらえる）

「（よくできた商品、仕組みなどに対して感心して）りくつな。」（りくつな＝ふしぎな、よくできた、巧みな）

「（体がつらそうな相手を気遣って、言葉をかけるときなどに）ひどいやろー。」（ひどい＝体がつらい）

「何でもよ一分かって、かたい子や／たからやんね。」（かたい：聞き分けのよい、利口な）

「（相手の赤ちゃんに対して）うまそな。」（うまそな：元気そうな）

「なーん、じゃまね。」（じゃまねー：大丈夫、問題ない）

「（旅行のお土産をもらって）あらー、きのどくな／おきのどくな」（きのどくな：ありがとう）

「この肉じゃが、ちょっこしくどい。」（くどい：塩辛い）

これらは共通語と形が同じなので、共通語とは違った意味で使っていること、つまり方言だと気づかれにくいのです。北陸三県に共通に使われる「もらえる」の意味の「あたる」、感謝のことばの「きのどくな」、「塩辛い」の意味の「くどい」を除くと、ほかには石川県内に特有の意味をもつことばで、県外から大聖寺にやってきた人が聞くと、最初はびっくりするにちがいありません。

共通語と同じ形、あるいは似た形で意味が異なるものに、ほかにどんなものがあるか、探してみるのも面白いですね。

第2課 明日の集合、何時け？

会 話

たかし：明日の 集合、何時け？

ゆうこ：7時半やって 先生な、ゆーとったがいね。

たかし：よーく 聞こえんかったがや。今から お菓子 買いに 行くんやけど、
もう こーてもたけ／こーてもたけ？

ゆうこ：なーも。ほんなら 一緒に いこーさ。

たかし：おばさん、ちょっこ おまけしてくれっけ？

おばちゃん：そんなら、100円ね。あんたら 明日 遠足なんか／なんけ？

ゆうこ：ほうや。能登島水族館 行ってくるうえー。

おばちゃん：えーじえ。そんなら、気をつけて 行ってらっしえ。

こ と ば

◆ 先生な：先生が（は）

◆ なーも：ううん、いいえ

共通語では

たかし：明日の集合は何時なの？

ゆうこ：7時半だって先生が言ってたじゃないの。

たかし：よく聞こえなかったんだよ。今からお菓子を買に行くんだけど、もう買ってしまっ
たの？

ゆうこ：ううん。それじゃあ、一緒に行こうよ。

（駄菓子屋で）

たかし：おばちゃん、少しおまけしてくれる？

おばちゃん：それじゃ、100円ね。君たち明日遠足なの？

ゆうこ：そうだよ。能登島水族館行ってくるんだよ。

おばちゃん：いいねえ。それじゃあ、気をつけて行って来なさいよ。

表 現

4. 「～け」—疑問—

- (8) あんたも 卓球部なんけ？(あなたも卓球部の？)
(9) すぐ 来るんけ？(すぐ来るの？)

自分の分からないことや気になることを相手に聞くための文を疑問文といいます。大聖寺方言では疑問文のおしまいによく「け」がつきます。

大聖寺方言には他にもたくさんの疑問の言い方があります。

- (10) 今、何時**け／なんけ／や／なんや**？
(11) 昼、何 食べる**け／んけ／んや／いや**？
(12) つよし、塾 通つと**るん**？(文末上昇調のイントネーション)
(13) つよし、塾 通つと**るんか**？

5. 「～てくれっけ」—依頼—

- (14) ちょっこし、待つと**てくれっけ**？(ちょっと待っていてくれる？)

相手に何かをお願いするとき、「～てくれっけ」と言います。また、若い人はあまり使いませんが、「～してくでんしえるけ」「～してくでるけ」ということもあります。

- (15) ちょっこし、待つと**てくでま**。

やや丁寧な言い方で共通語の「～てください」に近いものとして「～くで／ぐで」「くでんしえ／ぐでんしえ」という言い方があります。

- (16) ちょっこし、待つと**てくでんしえ**。

この言い方も最近若い人の間ではほとんど聞くことができません。

6. 「いいけ」—許可要求—

- (17) テレビの音、ちいそしても **いいけ？／えーけ**？(テレビの音、小さくしてもいい？)

自分が何かをしようとして、相手にそれをしてもよいか聞くと、大聖寺ことばでは「いいけ／えーけ」と言います。

練習問題

練習1 次の文の下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：明日は給食なしなの？ →明日、給食なしけ／なんけ？

(1)もう宿題済んだの？

→もう宿題済んだ_____？

(2)今、何してるの？

→今、何_____？

(3)妹は何歳なの？

→妹、何歳_____？

練習2 次の文を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：ちょっと、ここにいてくれる？

→（ちょっこし、ここにおってくれっけ／おってくでんしえるけ／おってくでるけ？）

(1)教科書見せてくれない？

→（_____）

(2)駅まで送ってくれない？

→（_____）

(3)ちょっと、待っていてくれる？

→（_____）

大聖寺ことば豆知識②

これって方言！？(2)

学校でよく使うことば、特に先生たちが普通に使っていることばだと、方言だと気づきにくいものがあります。そんな例を大聖寺ことばの中からいくつか見てみましょう。

- ・「～だいめ」…歌の歌詞を数えるとき、「1だいめ、2だいめ」（1番、2番）のように使われます。全国でも石川・富山両県だけの言い方で、ほかの45都道府県では「1ばん、2ばん」と言います。
- ・「かたがる」…「傾く」の意味で、「メガネかたがっとなるよ」「壁の絵がかたがっとなる」のように使われます。
- ・「校下（こうか）」…共通語で言う「学区（小・中学校の通学区域）」のことです。北陸三県、中でも石川県でよく使われています。ただ、大聖寺では最近「校区（こうく）」に言い換える例も見られるようになりました。全国共通語の学区でなく、近畿地方を含む西日本共通語的な校区に言い換えているところが面白いですね。
- ・「めもらい」…「麦粒種（ものもらい）」のこと。
- ・「おいでる」…「いらっしゃる」の意味で、「先生がおいでる」のように使われます。金沢や大聖寺など、かつての城下町で使われる、さらに丁寧な形の「おいでます」も方言だとあまり思われていないようです。

「おいでる」は共通語の「おいでになる」に形が似ているだけではなく、北陸地方で広く使われており、改まった場面でも使われるために方言だと気づきにくいようです。「めもらい」は共通語形「ものもらい」を普段聞く機会が少ないことと、福井県の嶺北地方から富山県までの広い範囲で使われる形であることで方言だと気づきにくいのでしょう。

「かたがる」も北陸三県で使われます。また、「校下」「～だいめ」などは、学校で先生も使っていることから、方言だと知る機会が少ないようです。こういうものを「学校方言」と言うことがあります。

ほかにはどんな「かくれた方言」があるでしょうか。みんなで探してみましょう。

第3課 風邪ひいてもたんや。

会 話

ひろこ：どうしたんや？ ひどそうな 顔 して。

ふみこ：なーも、風邪 ひいてもたんや。今朝から ものて、ものて。

ひろこ：起きとって だんねんかいね？ 今、はやっとるらしいさけねー／はやっとるよう
やさけねー。

ふみこ：おいね。うちあ、ねんねから ばばまで んなや。

ひろこ：あらー、おーとろっしゃ／てんぼな。えらいこっちゃじえ。

あまりもんやけど、この ぼたもち 持って行きね。

ふみこ：あらー、きのどくな／えとしげに。もろーてもて いいんけ？

ひろこ：つらい ときあ、おたがいさまや。

こ と ば

- ◆ ひどい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ものい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ねんね：赤ちゃん。または小さい子ども。
- ◆ てんぼな：程度がはなはだしいこと。
- ◆ ぼたもち：おはぎのこと。
- ◆ きのどくなー、えとしげに：ありがとう。すみません。

共通語では

ひろこ：どうしたの？ つらそうな顔をして。

ふみこ：いやあ、風邪をひいてしまったのよ。今朝からつらくて、つらくて。

ひろこ：起きていて大丈夫なの？ 今、はやっているらしいからねえ。

ふみこ：そうなの。私の家では、一番下の子からおばあちゃんまでみんなだ。

ひろこ：あら、ひどいね。大変なことじゃない。

余り物だけど、このおはぎ持って行きなさいよ。

ふみこ：あら、悪いね。もらってしまってもいいの？

ひろこ：つらいときは、お互いさまだ。

表 現

7. 「～んや」「～んじゃ」―「～のだ」―

(18) あんたが おるさけ 行く**んや**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(19) なに 読んどる**んや**? (なにを読んでいる**んだ**?)

共通語の「～のだ」にあたる言い方は大聖寺ことばでは「～んや」です。

(20) あんたが おるし 行く**んや／行くんじゃ**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(21) なに 読んどる**んや／ん**? (何を読んでいる**んだ**?)

練習問題

練習1 次の語を組み合わせて「んや」を使った大聖寺（自分の町）ことばの文をつくらせてみましょう。

例：あさって 温泉 行く。 → あさって温泉行くんや。

(1) 今日 図書館 行く。

→

(2) これから 夕飯 食べる。

→

(3) 夕飯 何 食べる。

→

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

ん	んや	んじゃ
---	----	-----

たかし：冬休みどこ行く_____？（冬休みはどこに行くの？）

つよし：山中温泉に行く_____。（山中温泉に行くんだ。）

練習3 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

るんや	くんや	るんじゃ	たんや	なんや
-----	-----	------	-----	-----

たかし：何 しと_____？（何しているんだ？）

つよし：家族で白山登山にい_____。（旅行で北海道いくんだ。）

今、準備しと_____。（今、準備しているんだ。）

去年も いっ_____けどね。（去年も行ったんだけどね。）

うちの 恒例行事_____。（うちの恒例行事なんだ。）

大聖寺ことば豆知識③

苦しさを表す方言

共通語の「苦しい」「つらい」にあたるような、苦痛や疲労感を表すことばとして、大聖寺では次のようなものが使われています。

「なんやら ものい／ものごいさけ、先に 休ましてもらわ。」

風邪をひいて熱が出たときなど、病的な苦しさを金沢では「ものい」を用いて表現します。走って息が切れるときなどの疲労感ではなく、頭がぼーっとしたり、熱気^{あつめ}があつたり、体がだるかったり、咳が出たりするときに使うのが「ものい」です。

「遅刻するかと思て4階まで駆け上がったらえろ一なったわ。」

病気以外も含んで幅広い苦しみを表すものとしては、「えらい」「ひどい」「きつい」「しんどい」などの表現があります。これらは「えっれー」「ひっでー」「きつついー」のように促音化して使われると、より苦しそうに聞こえます。このほか、能登地方で使われる「たいそな」「てきない」なども使われます。

第4課 宿題せんと寝たんやって。

会 話

正信：宿題 してきたんやろ、見せてま。

兵衛：なもや。なんやら ものかったさけ、宿題 せんと 寝たんやって。

正信：そんなんか／ほんなんか。たいへんやったんな。

そつでも／ほつでも よわった一。

お前に 見してもらおと おもとったさけ、なーも しえなんだんや。

兵衛：だらんこと いっとんなま。いつまでも そんな／ほんな ことやったら、じきに

自分で なにも できんように なっぞいや。しっかり せーま。

正信：そーやんな／ほーやんな……。

こ と ば

- ◆ さけ：から
- ◆ よわる：こまる
- ◆ だら：ばか

共通語では

正信：宿題してきたんだろ、見せてよ。

兵衛：ううん。なんだか体調が悪かったから、宿題しないで寝たんだって。

正信：そうなんだ。たいへんだったね。

それにしてもこまった。

お前に見せてもらおうと思っていたから、何もやらなかったんだよ。

兵衛：ばかなことを言っているんじゃないよ。いつまでもそんなことだったら、

そのうち自分で何もできないようになるよ。しっかりしろよ。

正信：そうだね……。

表 現

8. 「～ん」—動詞の否定形—

- (22) 最近 太り気味やさけ、もう **食べん**わ。(最近太り気味だから、もう食べないよ。)
(23) 宿題 **しえん**とこーっと。(宿題しないでおこうっと。)

大聖寺ことばでは、動詞「食べる」「書く」などの否定形は「食べん」「書かん」、「見る」「寝る」などの否定形は「見ん」「寝ん」となります。「する」の否定形は「しえん」です。

9. 「～なんだ」「～んだ」—過去形の否定—

- (24) 客が 一人も **こなんだ／こんだ**。(客が一人も来なかった。)
(25) 昨日、宿題 **せなんだ／せんだ**。(昨日、宿題しなかった。)

動詞「来る」「書く」などの過去形の否定は「こなんだ」「書かなんだ」となります。また、若い人たちの中には「こんだ」「書かんだ」や「こんかった」「書かんかった」という言い方も見られます。「する」の過去形の否定は「しなんだ」「せなんだ」ですが、同じように「せんかった」という言い方も見られます。

- (26) 客が一人も **こんだ／こんかった**。
(27) 昨日、宿題**せん**かった。

10. 「～んよんなる、～んのんなる」—変化の否定—

- (28) テレビから もっと 離れて 見んと、目ー **見えんよんなる**よ。(テレビからもっと離れてみないと、目が見えないようになるよ。)

変化の否定「～ないようになる」を大聖寺では「～よんなる」もしくは、「～のに(ん)なる」と言います。

- (29) テレビから もっと 離れて 見んと、目えー **見えんのんなる**よ。

11. 「なーも+否定」—全く～ない—

- (30) うちの 子ら、**なーも 勉強しえん**ぞいね。(うちの子たち、全く勉強しないんだよ。)

大聖寺ことばの「なーも+否定」は、共通語の「何も～ない」「全く～ない」という意味で使われます。

練習問題

練習1 次の下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：誰も来なかった。 ⇒ （ こなんだ／こんだ ）

(1) 寝坊して朝ごはんを食べなかった。

→ （ ）

(2) 家の手伝いをしなかった。

→ （ ）

(3) 日曜日は学校に行かない。

→ （ ）

練習2 次の文を大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

(1) その音はだんだん聞こえないようになった。

→ （ ）

(2) そのうち自分で何もできないようになるよ。

→ （ ）

練習3 下線部に（ ）内の意味の大聖寺（自分の町）のことばを書きましょう。

(1) たくみ：お金足りるかなー。

父親：_____（何も心配しなくてもいいよ）。

(2) はるき：予習してきたんか？

こうき：_____（少しもしてこなかったよ）。

大聖寺ことば豆知識④

だ ら

「だらん／だらな ことゆーとんなま！」口げんかなどで怒りが頂点に達したときに、大聖寺の人の口から、このようなことばが発せられることがあります。「だら」は「ばか」の意味で、全体では「ばかなことを言うんじゃないよ」ということになりますが、「いい加減にしろ！」「ふざけるな！」の気持ちをこめて、強い口調で言うより効果的です。主に男性が使う表現ですが、女性が使うとより迫力があるかもしれません。

一方、同じ「だら」でも、仲のいい友だち同士や家族の間で言われる「だらやんなあ」や、親が子ども叱るときなどに言う「だらけ！」「だらぼ！」は、親しみを込めた優しいいましめの表現です。「だら」は北陸では石川・富山両県で広く使われていますが、日常よく使うためか、大聖寺の代表的方言の一つとしてよく紹介されます。

「だら」のようなことばを罵倒語（^{ばとうご}）と言いますが、大聖寺ではほかに「ぼす」「ぼかす」「ぼけなす」「ぼぶら」「あやめ」「たらんち」なども使われます。厳密には言えませんが、大聖寺ではこれらの言い方を微妙なニュアンスの違いで使っているようです。

大聖寺の年配の人には、「だら」がこの地域の独特の方言だと思っている人が多く、真宗王国と言われる信仰心の強い土地柄のせいもあって、「だら」や「だらぶち」が仏教の「^{だるま}陀羅尼教」「^{だるま}陀羅尼仏」に由来すると信じている人もいます。しかし、この「だら」は、もとは京都あたりで生まれた「ばか」を意味する「たらず（足らず）」が、北陸に伝わるうちに「たらず」→「だらず」→「だら」と形を変えたものだと考えられます。なぜなら「だら」に似た言い方は、石川・富山だけでなく、新潟の一部（「たらず」）や西の鳥取・島根（「だらず」）、九州の一部などに分布し、このことばが京都を中心に周辺に広がったものであることを示しているからです。

第5課 21 世紀美術館行ってきたうえー。いいじえー

会話

ゆうこ：冬休み どころか 行ったけ？
たかし：なーも、ずっと こたつで みかん くーとったわ。
ゆうこ：私、21 世紀美術館 行ってきたうえー。
たかし：いいじえー。わし、まだ 行っとらんのやって／行っとらんのやて。
ゆうこ：建物あ てんぽに きれいやうえー。中に カフェまであるんやぞ。
たかし：そーなんや／ほーなんや。りくつなんね。
ゆうこ：ロボットみてなのも おるうえー。
たかし：すげーじえー。ほかには 何が あるんや／あるんけ？
ゆうこ：入って すぐんどこに 中に 人が 歩いとる プール あるうえー。
たかし：うーん、やっぱし 行ってみんと だちやかんな。

ことば

- ◆ 21 世紀美術館：金沢市の中心部に位置する「金沢 21 世紀美術館」のこと。2004 年 10 月開館。
- ◆ りくつな：立派だ。便利だ。巧みだ。

共通語では

ゆうこ：冬休みどこか行ったの？
たかし：ううん、ずっとこたつでみかん食べていたよ。
ゆうこ：私は21 世紀美術館行ってきたよ。
たかし：いいなあ。おれはまだ行ってないんだ。
ゆうこ：建物がすごくきれいだよ。中にカフェまであるんだよ。
たかし：そうなんだ。すごいなー。
ゆうこ：ロボットみたいなのもいるよ。
たかし：すごいなあ。ほかには何があるの？
ゆうこ：入ってすぐのところに中に人が歩いているプールがあるよ。
たかし：うーん、やっぱり行ってみないとだめだな。

表 現

12. 「～じえ(一)」—予想・期待に反することに対する意外な気持ち—

- | |
|---|
| (31) あれ、今日 元気ない じえ 。(あれ、今日は元気ないね。) |
| (32) 高そうな 服 着とる じえ 。(高そうな服きてるね。) |
| (33) 昨日 来んかった じえー 。(昨日来なかったね。) |

「～じえ」は自分にとって意外なことについて述べる時、話し手の気持ちがこめられた表現です。「～じえ」は「心配」「不安」「羨み」「皮肉」「不満」など場面に応じてさまざまな気持ちをこめて使われます。金沢あたりで使われる「～じー」と同じです。

ただし、例えば「あ、(自分の) くつしたに穴あいとるじえ。」のように、意外であったとしても自分のことについては「～じえ」は使えません。

13. 「～うえ(一)」—情報・認識の共有—

- | |
|--|
| (34) 隣、留守や うえ(一) 。(隣、留守なんだよ。) |
| (35) パソコン こーた うえ(一) 。(パソコン買ったんだよ。) |
| (36) 明日 休みやろ？ いい うえ(一) 。(明日休みでしょ？いいなー。) |

「～うえ(一)」は聞き手に自分の持っている情報・認識を伝えて、その情報・認識を聞き手にも持って欲しいという気持ちがこめられた表現です。

特に自分に関することについて「～うえ(一)」を使う場合、「いいでしょ」「うらやましいでしょ」という自慢のニュアンスがあります。また、反対に「うらやましいな」という気持ちをこめた「いいうえー」という言い方もあります。

練習問題

練習1 次の下線部には「じえ(一)」と「うえ(一)」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう。

- (1) 髪、切ったー？かわいい_____。
- (2) 土日、U S J 行ってきた_____。
- (3) 大丈夫？顔色悪い_____。

練習2 次の下線部には「じえ(一)」と「うえ(一)」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう

- (1) みさき：それ／ほれ、何やー？
さくら：電子辞書。昨日買った_____。
みさき：えー、いい_____！いい_____！かっこいい_____！
- (2) はるか：今日、お弁当の日やね。わたし、自分で作ってきた_____。
りん：そーなん／ほーなん！？すごい_____。

大聖寺ことば豆知識⑤

意味の理解しにくい方言、誤解されやすい方言

「何しとるんじえーね、早よしね！」

これは子どもが自分の部屋を散らかしっぱなしで遊びに行こうとしたので、母親が「早くしなさい（片づけなさい）！」と叱って言っているところです。たまたま、東京から来ていた友達が、なんと乱暴な言葉を使う母親だろうと、大変びっくりしたそうです。友達が驚いた理由は、母親が言った「早よしね！」を「早く死ね！」というふうに勘違いして聞いてしまったからです。

同じように、次のような言い方もちょっと理解しにくい言い方です。

「もう、ね、ね。」と「ね」を二つ重ねた言い方、また、「もう、ね、ねーね。」と、「ね」を三つ重ねた言い方、さらに、「もう、ね、ね、ねんね。」と四度も重ねた言い方をすることもあります。これらは、「もう夜も遅いから、寝なさいよ。」という内容の言い方です。こんな言い方を初めて聞くと、何を言っているのだろうか。どうして「ね」をいくつも言うのだろうかと思ってしまうようです。

また、「この 1000 円札。100 円にこわしてきて／こわいてきて。」という言い方を聞くことがよくあります。これは、「1000 円札を 100 円にくずしてきてほしい。」という意味ですが、初めて聞いた人は、どんなふうにこわす（壊す）のか、意味がわからなかったそうです。

そのほかにも、「かもいに頭がかっつく。」とか、「柱に頭をかっつける。」など、共通語で言えば「ぶっつかる」「ぶっつける」という意味のことばですが、これもちょっと変わっていることばですね。

大聖寺のことばの中には、まだまだほかの地域と変わった言い方やことばがあると思います。気をつけて探してみましょう。

第6課 おもっしえやろ？ ほーやねー。

会 話

ひろこ：どうやったら 古九谷の杜^{こくたに もり}に行けるんやろ。

つよし：J R大聖寺駅から 10 分ほど 歩けあ えーんや。

ひろこ：よー 知っとるじえ。このへん よー来るんけ？

つよし：なーも。去年、十万石まつりで 来たんやて。

ひろこ：いいじえ。私も 見に 行ってみたいわ。

つよし：そんなら／ほんなら 一緒に 行こーさ。そして、夜あ、ちょっこり 踊って 帰ろさ。

ひろこ：おいね、そんなら／ほんなら 妹と お母さんも 誘^{さそ}ても いいけ？ たくさん

おったほうが おもっしえやろ／おもっしやろ？

つよし：そーやんね／ほーやんね。ほんとに、おもっしえやろんな。

こ と ば

◆古九谷の杜：大聖寺にある池泉回遊式庭園。

◆十万石まつり：大聖寺で毎年9月中旬に行われる祭。

共通語では

ひろこ：どうしたら古九谷の杜に行けるんだろう。

つよし：J R大聖寺駅から 10 分ほど歩けばいいんだ。

ひろこ：よく知っているねー。このあたりによく来るの？

つよし：うん。去年、十万石まつりで来たんだよ。

ひろこ：いいねえ。私も見に行ってみたいな。

つよし：それなら一緒に行こうよ。そして、夜は輪踊り少し踊って帰ろうよ。

ひろこ：うん、それなら妹とお母さんを誘ってもいい？

たくさんいたほうが楽しいでしょ？

つよし：そうだね。本当に楽しいだろうな。

表 現

14. 「ほーや」「そーや」－肯定的応答詞－

(37) A:寒いこっちゃんねー。 B: **ほー**やんね／**そー**やんね。

(寒いことだねー。) (そうだね。)

(38) A:今日、忙しかったけ？ B: **おい**ね、えろーなったわ。

(今日、忙しかった？) (そうなんだよ、つかれてだるくなったよ。)

相手の話に共感して相づちを打つとき、大聖寺では「ほーや」「そーや」と言います。短く「ほや」「そや」と言ったり、くり返して「ほやほや」「そやそや」と言ったりもします。また、「おいね」という表現もよく使います。男性は「おいや」をよく使います。

(39) A:昨日、あんたんとこ 泥棒 入ったんやって？ B: **おい**ね、**ほや**とこと／**そや**とこと。

ベテランになると、このように組み合わせて使うこともできます。

15 「なーも」「なーもや」－否定的応答詞－

(40) A:ほんな／そんな 薄着で 寒ねーけーね？ B: **なーも**、暑がりなんやって。

(そんなに薄着で寒くないの？) (うん平気、暑がりなんだよ。)

(41) A:明日で テスト 終わりけ？ B: **なーも**、あさってまでや。

(明日でテスト終わり？) (いいや、明後日までだよ。)

「ほーや」「そーや」とは反対に相手の話に対して「いいえ」「違うよ」と言うとき、大聖寺では「なーも」を使います。他にも「なーもや」と言ったり、短く「なも」と言ったりします。

16. 「ほれ」「それ」－代名詞的指示詞－

(42) **ほの／その**子、どこの子や？ (その子、どこの子だ？)

(43) **あこ**の マンションに 住んどるんやって。(あそこのマンションに住んでいるんだって。)

大聖寺ことばでは人・もの・場所を指すとき、次のようなことばを使います。

	コ系	サ系	ア系	ド系
もの	これ	それ／ ほれ	あれ	どれ
もの・人	この	その／ ほの	あの	どの
場所	ここ	そこ／ ほこ	あこ／あすこ	どこ

大聖寺では「それ」や「その」の代わりに「ほれ」や「ほの」の二通りを使います。また、共通語の「あそこ」にあたる場所を指すとき、「あこ、あすこ」を使います。

練習問題

練習1 下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：そのバス →（ その／ほの ）バス

- (1) あそこの店 →（ ）の店
- (2) そこの傘 →（ ）の傘
- (3) その子 →（ ）子
- (4) そうだそうだ →（ ）

練習2 ☐の中から選んで下線部をうめてみましょう。

おいや	おいね	なーも	そ（ほ）や	なーもや
-----	-----	-----	-------	------

- (1) りょうた：ほの荷物、おまえのけ？
かいと：_____、おれのや。あこの本はおまえのけ？
りょうた：_____、おれのでない。
- (2) はるな：昨日の宿題やった？
ほのか：_____、やらなんだわ。はるなは？
はるな：_____、やっくらん。
- (3) 父親：今日の遠足あ、よ一歩いたけ？
かいと：_____、えろーなったわ。

大聖寺ことば豆知識⑥

変化する大聖寺ことば一世代差のある表現ー

「悲しいさけ／さかい／さき／さし泣くんや。」（70 歳代女性）

「悲しいさけ泣くんじゃ。」（80 歳代男性）

「悲しいし泣くんや。」（20 歳代男性）

ここでは世代差のある表現を一つとりあげておきましょう。上の大聖寺ことばの例はともに「悲しいから泣くのだ」の意味ですが、「から」にあたる部分がそれぞれ違っています。大聖寺で使われている理由・原因の接続助詞「から」にあたる方言は「さけ（に）」「し」です。「さけ」は「さかい」から変化した形です。「さけ」のもとになった形の「さかい」は、もともと近世の上方語ですが、現在でも関西を中心に広い範囲で使われています。関西から北陸に伝わった接続助詞の「さかい」は、かつての北前船ルートに沿うように、福井から日本海側を北上して石川、富山、新潟、山形、秋田、そして青森や岩手の一部にまで達して、その形も、地域により「さけ」「すけ」「しけ」のように変化しています。

「雨が 降りそうやさけ 行かんわ。」（52 歳男性）

「雨 降りそうやし 行かんわ。」（43 歳女性）

大聖寺では高齢層や中年層では「さけ」に「し」が混ざります。さらに若い20代・10代になると、「さかい」「さけ」をほとんど使わず、「し」または共通語と同じ「から」をよく使います。

ぜひ、みなさんのまわりにいる様々な世代の人の話し方を聞いて確かめてみてください。

第7課 気をつけて行きねーや。

会 話

ふみこ：あけまして おめでとう。初詣^{はついで}に 白山さん 行こうさ。

たかし：ほんなら、ちょっと待ってま。

祖 母：雪降ってきたさけ、気をつけていきねーや。

たかし：せっかくやし、おみくじ 引かんけ？

ふみこ：ほーやね。ほんなら、先に 引きね。

たかし：なんや 末吉かいや。やるきあねーぞいや。

ふみこ：あ、大吉や。おみくじも 引いたし、そろそろ 帰ろさ。

たかし：ただいま……。なんか すーすー しるんな。

祖 母：ひどそうやな。あんた 風邪^{かぜ} ひいたんでねーけ？

たかし：新年 早々、ほんとに やるきあねーぞいや。

こ と ば

◆ 白山さん：「しらやまさん」と読む。白山市鶴来町にある白山比咩神社。

◆ すーすーする：寒気がする。

◆ ひどい：体の調子が悪い。

共通語では

ふみこ：あけましておめでとう。初詣に白山比咩神社に行こうよ。

たかし：それじゃあ、ちょっと待っていてよ。

祖 母：雪が降ってきたから、気をつけて行きなさいね。

たかし：せっかくだから、おみくじを引かないかい？

ふみこ：そうだね。それじゃあ、先に引きなさいよ。

たかし：なんだ末吉かい。ついてないなあ。

ふみこ：あ、大吉だ。おみくじも引いたし、そろそろ帰ろうよ。

たかし：ただいま……。なんだか寒気がするなあ。

祖 母：つらそうだね。あなた風邪をひいたんじゃないか？

たかし：新年早々、本当についてないなあ。

表 現

17. 「～ね」「～ねー」—軽い命令・勧誘—

- (44) あんたも がんばり**ね／ねー**ね。(あなたもがんばりなさいよ。)
(45) お茶 入れるさけ、よっていき**ね／よってきね／いきねー**ね。(お茶入れるから、よっていきなさいよ。)

- (46) この ノートに 書き**ね**。
(47) ごはんの 前に 宿題 し**ね**。

また「～こっちゃ」という言い方もあります。

- (48) もう 遅いし、うちに 泊まって いき**ねー**ね／いっ**こっちゃ**いね。
(49) 明日 早いさけ、もう ねーや (主に男性)／**ねねー**ね (主に女性)／**ねっこっちゃ**
(男女ともに)。

18. 「～さ」—勧誘の表現—

- (50) いっしょに 映画 見に **行こさ**。(一緒に映画を見に行こうよ。)
(51) 明日、公園で **遊ぼさ／遊ぼうさ**。(明日、公園で遊ぼうよ。)

友だちなどに「～しようよ」と言うとき、大聖寺では「～さ」を使います。「食べる」「する」の「～さ」の形は「食べようさ」「しようさ」です。短く「食べよさ」「しよさ」と言うこともあります。

また、「～しない？」と疑問の形で誘うとき、「～け」「～か」を使います。

- (52) 一緒に映画行かん**け／行かんか**？
(53) 明日、公園で遊ばん**け／遊ばんか**？

練習問題

練習1 下線部を大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

(1) 今度の日曜日、一緒に映画を観に行こうよ。

→()

(2) 明日、みんなで遊ばない？

→()

(3) 水ギョーザ作って食べようよ。

→()

練習2 下線部を大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

(1) もう遅いし、寝なさいよ。

→()

(2) 気いつけて行きなさいね。

→()

(3) 何でも食べなさいね。

→()

大聖寺ことば豆知識⑦

接頭辞と接尾辞のいろいろ

接頭辞、接尾辞というのは、一つの言葉の頭や後にある辞（語）を付けて、その言葉が持つ意味を強めたり、大げさにしたり、はっきりさせたりなどの働きをします。また、接尾辞には「～する人」という意味を表すことも多いのですが、特に好ましくない行為のことばの後に付き、その人や行為の卑しい感じを表したりするのに、使われています。

大聖寺のことばの中にも、他の地域と変わらぬ、いろいろな種類の接頭辞、接尾辞を見ることが出来ます。普段の話し合いの中でそれらが使われ、話し手の話の内容や意味を強めたり、はっきりさせたりする役割をしています。

次に、大聖寺でよく使われる接頭辞・接尾辞を、その働きによっていくつかあげておきましょう。

〈接頭辞〉

- ◇「コ○○○」……意味を強め、相手やそのものへの軽蔑の意味を表すときに用いる。
- ・コスカン（好きでない）　・コニクラシ（憎らしい）
 - ・コツラニクイ（面^{つら}憎い）　・コキタネ（汚い）　・コイソガシ（忙しい）
 - ・コヤカマシ（やかましい）など。
- ◇「クソ○○○」……意味を強めるとともに、相手をののしる意味を表す時に用いる。
- ・クソタレ（何の役にも立たない者）　・クソガキ（腕白な童）
 - ・クソイジ（はる）（強く意地を張る）
 - ・クソオモッシェモネ（何にも面白くない）
 - ・クソヤカマシイ（やかましくて困る）など。
- ◇「カチ○○○」……意味を強め、本来「打つ」の意味をもっていた「カチ」が接頭辞的に用いられ、さらにひどい行為が重なるときに用いる。
- ・カチクラウス、カチナグル（ひどく叩くこと）
 - ・カチワル（たたきつけて割ること）　カチツケル（ひどくぶつける）など。

〈接尾辞〉

- ◇○○○コキ……「～する人」の意。好ましくない人やその卑しい行為を表す時に用い、「○○○コク」の形で動詞としても用いられる。
- ・ウソコキ、ウソコク（嘘をつく人、つくこと）
 - ・グスコキ、グスコク（不正をする人、すること）
 - ・ヤンチャコキ、ヤンチャコク（我を張って迷惑をかける人、かけること）
 - ・ダテコキ、ダテコク（人目につくような身なりをする人、すること）
 - ・ヨスコキ、ヨスコク（身なりばかり目立つようにする人、すること）
 - ・ションベンコキ、ションベンコク（どこでも小便をする人、すること）など。
- ◇「○○○ンボ」……人物そのものを指して言う。好ましくない様子、状態を表す言葉の下に付けたもの。
- ・チョロンボ（やせた人のこと）　・ガリンボ（やせた人のこと）
 - ・オコリンボ（すぐに腹を立てて怒り出す人）など。
- ◇「○○○コ」…小さくて可愛いものに親しみをもって表現する時に用いる。幼児語の一つとして用いられることがある。
- ・アリコ（蟻）　・メメジャコ（目高）　・インコ（犬）　・ニャンコ（猫）
 - ・コンコ（下駄）　・バーコ（着物）など。
- ◇「○○○ッポ」……「端（はし）の方」という意味が含まれる言い方の時に用いる。
- ・シリッポ（尻の方）　・ハシッポ（端の方）　・ハナッポ（端の方）
 - ・ケツッポ（最後、ビリの方）など。
- ◇「○○○カス」……～カスと「カス」を付けて、他へ力が及ぶような形にして用いる。
- ・アマラカス（余らせる）　・ワラワカス（笑わせる）
 - ・ヤブカス、ヤブラカス（破す）など。

ここでは二、三の例だけあげましたが、大聖寺ことばの中には、ほかにも接頭辞、接尾辞がまだまだあると思います。毎日の生活の中で、気をつけて探してみてください。

第8課 どいてま。ちょっこり待ってま。

会 話

母 親：^{そうじ}掃除 しえな いかんし、どいてま。
たかし：もー ゲーム 終わるし、ちょっこり／ちょっと 待ってま。
祖 父：えーくそ。大掃除 終わらんがいや。はよ どけま。
たかし：やるきねーなー／やるきねーんなー。ほっでも、終わったら 続き やらいてや／
やらいてくれ。
母 親：ほんな、この むたむたん なつとるの、ちゃんと 片づけな いかんぞ。
祖 父：見とらんと ^{おも}思て、また ゲーム したら いかんがやぞ。

たかし：この 窓も ふかな いかんけ？
祖 父：おいや、外側も ふかな いかんぞいや。
母 親：もう、蕎麦 ^{そば} できとるぞいね。
のびてしまうさけ、はよ 食べねーま／食べてしまいねま。

こ と ば

- ◆ ちょっこり：ちょっと。すこし。
- ◆ えーくそ：いらだちの表現。ええい。
- ◆ むたむた：部屋などがちらかっている様子。

共通語では

母 親：掃除しなければいけないから、どいてよ。
たかし：もうゲームも終わるから、ちょっと待ってよ。
祖 父：ええい。大掃除が終わらないじゃないか。早くどけよ。
たかし：ついてないなあ。それでも、終わったら続きやらせてよ。
母 親：それじゃあ、このちらかっているのを、ちゃんと片づけなければいけないよ。
祖 父：見ていないと思って、またゲームをしてはいけないんだぞ。
たかし：この窓もふかなければいけないの？
祖 父：そうだ、外側もふかなければいけないぞ。
母 親：もう蕎麦ができていますよ。のびてしまうから、早く食べてよ。

表 現

19. 「～ま」「～まん」—強意の終助詞—

(54) はよ、食べね**ま**／食べね**まん**。(早く、食べなさいよ。)

(55) もっと 力 入れて 押せ**ま**／押せ**まん**。(もっと力入れて押しなさいよ。)

文のおしまいに付く「ま」は意味を強める働きをします。例えば「食べね」は、やさしく相手に食べることを勧める言い方ですが、「食べねま」と言うと、命令するような言い方になります。同じような意味で「食べてま」という言い方もあります。

また、「走る」「押す」などの動詞の命令形に直接「ま」をつけて「走れま」「押せま」と言うと、強めの命令になります。

「する」の「～ま」の形は「せーま／しえーま」「っしょま」です。

(56) お前 いいかげんに せー**ま**／っしょま。

20. 「～ないかん」「～ねえかん」—義務—

(57) 宿題 やら**ないかん**／やら**ねえかん**よ。(宿題やらなければいけないよ。)

(58) 6 時まで に 帰ら**ないかん**のやて。(6 時までにかえらなければいけないんだよ。)

「～なければならない」と必要や義務があることを言うとき、大聖寺ことばでは「～ないかん」と言います。また、若い人は使いませんが「～なけらなえかん」という言い方もあります。

(59) 宿題 やらないかん。

「する」の場合は、「せ**ないかん**」になります。

(60) 明日 遠足やし、早起き せ**ないかん**。

21. 「～たらいかん」—禁止—

(61) こんなとっから 入っ**たらいかん**／入っ**たらえかん**よ(ぞ)。(こんなところから入ってはいけないよ。)

「～てはいけない」と禁止するとき、大聖寺ことばで「～たらいかん」と言います。また、若い人はあまり使いませんが「だめだよ」という意味で「だちゃかん」(「だちかん」「だっちゃん」の形も)という言い方があります。

(62) だらだら しとったら **だちゃかん**のやぞ。

練習問題

練習1 次の文を例のように「～ま」を使って強く命令する言い方にしてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ起きま。）

(1)本気で走る。 → ()

(2)力を入れる。 → ()

(3)急いで準備する。 → ()

練習2 次の文を例のように「～ないかん／～ねいかん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ 起きないかん／起きねいかん／起きらないかん。）

(1)全部食べる。 → ()

(2)きれいに書く。 → ()

(3)親孝行する。 → ()

練習3 次の文を例のように「～たらいかん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ起きたらいかん。）

(1)夜ふかしする。 → ()

(2)約束をやぶる。 → ()

(3)宿題を忘れる。 → ()

大聖寺ことば豆知識⑧

そくおんか 促音化

北陸の中でも石川の方言に共通した特徴として「促音化」が盛んに起きることが挙げられます。「促音」とは「っ」で表記される「つまる音」のことです。

「ソース とってくれっけ？」（とってくれるけ）」

「明日も 来れっけ？（来れるけ）」

「乗せてって やっか？（やるか）」

「学校 行ってくっぞいや／学校 行ってくっろいや（くるぞいや）。」

このように、最後が「る」で終わる動詞の「る」が「っ」になる例が特に多いようです。他にも「行こっさ。（行こうさ）」や「行こっちゃ。（行くこっちゃ）」など動詞が文末詞「け」「ぞいや」「さ」「こっちゃ」などと合わせて使われるときに「促音化」がよく現れます。

また、若い人たちに使われる大聖寺ことばの中にも「はっげーんな（はがい）」「きっちー（きつい）」「だっちゃん（らちあかん）」「やっきねー（やるきない）」のような促音化がよく聞かれます。

ほかに「とっしより（年寄り）」「てったい（手伝い）」「だっら（だら＝馬鹿）」など名詞にも「促音化」が見られます。

ここに挙げなかったもの以外にも、促音化の例はたくさん見つかると思いますので、ぜひ周りから聞こえてくることばをじっくり観察してみてください。

第9課 寒いさけうちんなか入っとろさ。

会 話

ゆうこ：ほんなら 帰るわ。長いこと ありがと。
ふみこ：なもや、氣い一つけて 帰んね。
ゆうこ：あら、雨 降っとるのに、傘 持っとらんわ。
ふみこ：ほんなら これ 持っていっこっちゃ／持っていきね。
ゆうこ：あらー 氣のどくな。
ふみこ：ほっでも、あんた。通り雨やさけ、もう ちょっこり しりゃ、やむわいね。
ちょっこり 待ちね／待ちねーね。
ゆうこ：ほーやんねー。ちょっこり 待つけーね／待つかんね。
ふみこ：おいね、寒いさけ うちんなか 入っとろさ。
こと一っと／こつとーりと こたつに 入って ねまっとんね。

こ と ば

- ◆ 氣のどくな：申し訳ない。ありがとう。
- ◆ ちょっこり：すこし。
- ◆ こと一っと：ゆっくりと。のんびりと。くつろいだ様子。
- ◆ ねまる：すわる。

共通語では

ゆうこ：それじゃあ帰るね。長いことありがとう。
ふみこ：いいえ、氣をつけて帰りなさい。
ゆうこ：あら、雨が降っているのに、傘を持っていないよ。
ふみこ：それなら、これを持っていきなさいよ。
ゆうこ：あら、ありがとう。
ふみこ：それでも、あなた。通り雨だから、もう少しすればやむよ。少し待ちなさいよ。
ゆうこ：そうだね。少し待とうかな。
ふみこ：そうだよ、寒いから家の中に入っていようよ。ゆっくりこたつに入ってなさいよ。

表 現

22 「～さけ」—原因・理由—

(63) 約束あつ**さけ／さき／さし**行けんわ。(約束があるから行けないよ。)

(64) 寒かった**し**、はよ寝たわ。(寒かったから、早く寝たよ。)

大聖寺ことばの原因・理由を表す接続助詞は「～さけ」「～さき」「～さかい」「～さし」または「～し」です。若い世代では「～し」という言い方をよく使います。また、最近は共通語と同じ「～から」もよく聞かれるようになり、高校生以下の若い世代では「～さけ」「～さかい」はほとんど使われないようです。

70・80代	「～さけ／さかい／さき／さし」> 「～し」
40・50代	「～さけ／さかい」≥「～し」
20代	「～し」>「～さけ／さかい」
10代	「～し」>「～から」

23. 「～んやに」「～んにやに」「～んじゃに」—逆接—

(65) 雨降つとる**んやに／んにやに**、傘もつとらん。(雨が降っているのに、傘を持っていない。)

(66) なーも寒**ねーんやに／ねーんにやに**、えらい厚着しとるじえ。(全然寒くないのに、ずいぶん厚着をしているね。)

大聖寺では共通語「～のに」にあたる逆接を表す接続助詞として「～んやに」「～んじゃに」を使います。「～さけ」と同じように「～のに」も世代によって言い方が少しずつ違います。若い世代では「～のに」という言い方が多くなります。

70・80代	「～んやに」「～んじゃに」
40・50代	「～んやに」>「～んにやに」
20代	「のに」
10代	「のに」

24. 「～あ」—一般的な条件・順接の仮定条件—

(67) 1に1たせ**あ**、2やろ。(1に1をたせば、2だろう。)

(68) もっと足が長けれ**あ**いいんやに。(もっと足が長ければいいのに。)

大聖寺では共通語「～ば」のかわりに「～あ」という言い方をします。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

さけ	さかい	さかいに／さけに	し
----	-----	----------	---

(ア)明日 約束 ある_____ 行けんわ。

(イ)寒かった_____ はよ 寝たわ。

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

んやに	んにやに	んじゃに
-----	------	------

(1)腹へつとる_____食べれん。

(2)会いたい_____会えん。

練習3 次の文を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：羽があれば飛べるのに。⇒（羽があれば 飛べるんやに／飛べるんにやに。）

(1)呼べばすぐ来るよ。

→ ()

(2)安ければ買って置いて。

→ ()

大聖寺ことば豆知識⑨

気候と方言

方言は地方の文化であり、地域性を反映したものとよく言われることがありますが、大聖寺のことばについて詳しく見ても、このことばは大聖寺だから使われるようになったとか、大聖寺だから生まれたとはっきり言えそうなものは実は多くありません。なぜなら、大聖寺で使われることばの多くは、かつての都（中央語地域）があった京都方面から伝わったものがもとになっているからです。

そんな中で、たとえば気候と関係のある方言の中でも、冬の雪にまつわる大聖寺ことばには、この地域で独自に生まれたものがありそうです。

みなさんは知らない（使わない）かもしれませんが、大聖寺のことばの中からそんな例をいくつか拾ってみましょう。

アラコギ……雪が積もったままの新雪の中を最初に歩いて進むこと
テカテカ……雪が踏み固められて表面がツルツルになった状態
ゴボル……雪道を歩いていて雪に足がはまる
ガッポ、ゴッポ……下駄で雪道を歩いたときに、下駄の歯の間につまる雪の固まり
ユキスカシ……雪除け作業
ユキヤケ……しもやけ（凍傷）
ユキガミナリ……雪が降る前兆としての雷
コシケタ（コシキタ）……木製の雪掻き具
ザラメユキ……粗い氷のような雪
ベタユキ……水分を多くふくんだ雪のこと

最近は雪が少なくなって、こうした雪の生活にまつわる方言もだんだん忘れ去られようとしているのは仕方がないことですが、地域性を反映した方言の例としては面白いものです。みなさんのまわりにいる、雪が多かった時期を知っている人に、雪にまつわる大聖寺ことばにどんなものがあったか聞いてみましょう。

ところで、東北が寒くて口を大きく開けて発音しないからズーズー弁のような発音になったという説を信じている人がいますが、これは真っ赤な嘘です。なぜなら、ズーズー弁的発音は、寒さ厳しい東北だけでなく、北陸の富山県・石川県の一部や山陰の出雲地方付近にもあるからです。

第10課 はよらとどこ行くんけ？

会 話

ふみこ：あら 奥さん、はよらと どこ 行くんけ／行きなるんけ？

ひろこ：正月の 準備に スーパーまで 行くんや。

ふみこ：ほんなら、私も つんだって 行くわ。

ふみこ：奥さん、カニ こーてかんけ？ 安いぞいね。

ひろこ：いくらなんでも ちいそねーけーね？

もっと でこなけな、あいそむないやろ。

ふみこ：ほーやね。あんた、もっと でこて たこない カニ ないんけーね。

魚 屋：ねえさん、これ どうけ？ こん中で 一番 でかいぞいね。

ひろこ：ほんなら、この カニ もらうさけ、なんか おまけ しねま。

こ と ば

◆ あいそむない：物足りない。寂しい。

共通語では

ふみこ：あら奥さん、早くにどこに行くの？

ひろこ：正月の準備に近江町まで行くんだ。

ふみこ：それなら、私もついて行くよ。

ふみこ：奥さん、カニを買っていかないかい？安いよ。

ひろこ：いくらなんでも小さくないかい？もっと大きくないと物足りないだろう。

ふみこ：そうだね。あなた、もっと大きくて高くないカニはないのかい？

魚 屋：奥さん、これはどうだい？この中で一番大きいよ。

ひろこ：それじゃあ、このカニもらうから、何かおまけしなさいよ。

表 現

25. 「～らと」―「形容詞＋に」―

- (69) こんな **はよらと／はよに／はよーに** どこ 行くがけ？（こんなに早くにどこいくの？）
(70) 昨日な、**おそらと／おそに／おそーに** 帰ってきたじえ。（昨日は遅くに帰ってきたね。）

共通語「早くに」「遅くに」にあたるものとして、大聖寺方言では「はよらと」「おそらと」という言い方があります。

26. 「～ない」「～ね」―形容詞の否定形―

- (71) そんなに着こんで**あつねーけ**？（そんなに着こんで暑くない？）
(72) 安売りやっちゅーけど、なーも**やすねーわ**。（安売りだって言うけど、全然安くないよ。）

共通語では形容詞の否定形は「あつくない」「やすくない」ですが、大聖寺では多くの場合「く」がぬけて「あつね」「やすね」と言います。

27. 「～て」―形容詞のテ形―

- (73) **しろて**でかい花が咲いとる。（白くて大きな花が咲いている。）
(74) テストの点数**よーて**よかったじえー。（テストの点数良くて良かったね。）

共通語では形容詞の「て」がつく形は「しろくて」「よくて」ですが、大聖寺は「く」がぬけて「しろて」となったり、間をのばして「よーて」となったりします。

28. 「～なけな」「～なけらな」―形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」―

- (75) もっと**安なけな**売れんぞいね。（もっと安くないと売れないよ。）
(76) **ぬくなけな**桜も咲かんわ。（暖かくなないと桜も咲かないよ。）

大聖寺ことばでは「安くないと」「あたたかくなないと」のように形容詞に条件を表す「～ないと」がつくとき、「安なけな／安なけらな」「ぬくなけな／ぬくなけらな」のように「～なけな」「～なけらな」と言います。

練習問題

練習1 次の下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：私ももう若くないさけな。 ⇒ （若ね^{わか} ）

(1) この料理うまくないな。

→ （ ）

(2) 春あ、暖かくていいね。

→ （ ）

(3) もっと長くないと届かんぞいね。

→ （ ）

練習2 次の文を大聖寺（自分の町）の言い方に変えてみましょう。

(1) 英語は難しくないよ。

→ （ ）

(2) こんなに夜遅くにどこ行くの？

→ （ ）

(3) あそこのお化け屋敷は全然怖くないよ。

→ （ ）

大聖寺ことば豆知識⑩

大聖寺方言のオノマトペ

「あらーちゃわちゃわと。ちんとしとろ。ちみちみやぞ。」

部屋の中を所狭しと走り回る子どもたちに、大人たちはよくこのセリフを言ったものです。「ちゃわちゃわ」はせわしない動きや落ち着きがない様子を表すオノマトペ（擬声語・擬態語）です。「ちんと」は「ちゃわちゃわ」とは反対のじっとしている状態、「ちみちみ」は指先でひふ皮膚をつまんでねじることを指します。「ちみちみ」は痛いので、こう言われた子どもたちはすぐに「ちんと」するわけです。また、おしりをたたくことを「ぺんぺん」と言います。

大聖寺にはほかにも共通語にはないようなオノマトペが存在します。その一部を紹介したいと思います。

けんけん、けんけらけん……鉛筆の先がとが尖っている状態

ちゃべちゃべ……おしゃべりな様。出しゃばりな様。

じゃみじゃみ……テレビ画面の砂嵐状態。

ちんちん、ちりちり……お湯などが触れられないくらい熱い様。

きんきん……飲み物がよく冷えている様。

すーすー（する）／すかすか（する）／ぞくぞく（する）……寒気がする様子。

つるつるいっぱい……容器から液体があふれんばかりに注がれている状態。

きときと……魚介類などの新鮮な様子。

むたむた……部屋などが散らかっている様子。

ごぼる、ずぼる……積もった雪に足をとられること。はまる。

がっぱ（になる）……必死になる様子。

こぼこぼ……イモやカボチャの実がホクホクしておいしそうな様子。また、雪が激しく降る様。

いんぎらーと、おんぼらーと……ゆったりとした様子。

めっこめざらし……何から何まで全て。すべてを見通されている様子。

つんつるてん……衣服の丈が、着る人の背丈に合わず、小さい様子。

まっかちんか……血などが流れ出て、その辺が真っ赤に染まっている様子。

しっからかん、かんからかん……とても固くものを結んだ様子。成功が間違いないときにも使う。

こんこん、こんこちこん、かんかちかん……氷などがかたく凍っている様子。

第11課 食べれるわいや。

会 話

つよし：好きなもん 頼みね。今日あ 世話んなったさけ おごるわ。

たかし：ほんなら、チャーシュー麺 大盛りに しるわ。いいけ？

つよし：おう。ほやけど お前 食べれるんかいや。

この店あ スープが くどいっちゅう 噂やぞいや。

たかし：どむねどむね。食べれるわいや。

店 員：はい、どうぞ。

つよし：あらー、てんぼな。でっけー チャーシューやんな。

たかし：うまそーやんな。いただきます。

ん？ なーも くどねーがいや。しょむねーぞいや。

こ と ば

- ◆ くどい：塩辛い。
- ◆ でっけー（でかい）：大きい
- ◆ しょむねー：味がうすい。

共通語では

つよし：好きなものを頼みなさい。今日は世話になったからおごるよ。

たかし：それなら、チャーシュー麺大盛りにするよ。いいかい？

つよし：おう。だけどお前食べられるのかい。

この店はスープが塩辛いという噂だよ。

たかし：大丈夫、大丈夫。食べられるよ。

店 員：はい、どうぞ。

つよし：すごいなあ。大きいチャーシューだな。

たかし：おいしそうだな。いただきます。

ん？これは、全然塩辛くないよ。味がうすいよ。

表 現

29. 「食べれる」― 一段活用・カ変動詞の可能動詞形―

- (77) 全部 **食べれる**よ。(全部食べられるよ。)
(78) 今夜 流れ星が **見れる**よ。(今夜流星が見られるよ。)
(79) もっと 速い 球 **投げれる**やろ。(もっと速い球が投げられるだろ。)
(80) 明日も **来れる**け？(明日も来られる？)

「～できる」ということを可能といいます。「見る」「食べる」(一段動詞)、「来る」(カ変動詞)の可能の形は、共通語では本来「食べられる」「見られる」「来られる」でしたが、大聖寺は早くから、「見れる」「食べれる」、「来れる」という言い方がよく使われている、「ら抜きことば」の先進地です。

最近では、全国的に、また共通語でも「見れる」「食べれる」「来れる」という形が広まっています。

また、「行く」「書く」「読む」など(五段動詞)の可能の形は「行ける」「書ける」「読める」ですが、大聖寺では「ら抜き」が進んだことで、可能表現を「～れる」の形でそろえようとして、早くから「行ける」「書ける」「読める」のような「れ足すことば」が生まれています。なお、一部の世代(60歳代以上)では、さらに「れ足すことば」が進み、「行けれる、書けれる、食べれる、起きれる、来れる」といった言い方で生まれています。

- (81) 5時半までに **行けれ**るけ？(5時半までに行ける？)
(82) 上手に **書けれ**るようになりたい。(上手に書けるようになりたい。)
(83) これなら 5分で **読め**るよ。(これなら5分で読めるよ。)

練習問題

練習1 次の文の下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：服ぐらい1人で着られるわいね。

→ （着れる）

(1) 人が少ないさけゆっくり見られるわいね。

→

(2) 明日忙しいし来られんのやけど。

→

(3) 水に油は混ぜられんのやよ。

→

練習2 次の文を大聖寺（自分の町）での言い方に変えてみましょう。

(1) もうちょっと字がうまく書けるようになりたいな。

→

(2) 準備できたからすぐに始められるよ。

→

(3) そんな高くては無理だよ。少し下げられないかな。

→

大聖寺ことば豆知識⑪

ゆれるイントネーション

大聖寺ことばの中で、「あの〜」「ほやさけ〜」「行くんや〜」のように、主に文の途中の学校文法で言う文節の切れ目や一部の文末の「〜」の部分に、伸びてゆれる独特のイントネーションが聞かれることがあります。このイントネーションは、福井県嶺北地方から石川県、そして富山県の平野部の広い範囲で聞かれるもので、元来近畿方言の影響を強く受け、それとの共通性を多く持つ北陸方言の中では、全国的にも北陸三県でしか聞けない独特のイントネーションとしてだいたいの特徴となっています。みなさんが、将来北陸以外の地方に移り住んだときなど、まわりからこのゆれるような独特のイントネーションが聞こえてきたら、北陸出身の人と考えてまず間違いないでしょう。

この全国的にも珍しい「ゆれる」特徴に注目して、研究者はこれまで「ゆすり音調」「波動音調」「うねり音調」（「音調」は「ゆすりイントネーション」のようにイントネーションと言い換えられる場合もあります）のような言い方で呼ばれてきました。また、このイントネーションが、東京のことばの「それでね」「だからさ」の「ね」「さ」などの間投助詞の役目をしているという考え方から「間投イントネーション」とも呼ばれています。

年配の人たちに比べると、若い人たちからはこの独特のイントネーションがあまり聞かれなくなったような気はしますが、ふだんの気楽な場面ではみなさんも思わず出ているかもしれません。アクセントもそうですが、こうした発音の特徴というのは、「ばか」を「だら」と言うといった語形の違いと比べると方言の特徴として意識しにくいものですから、意外に根強く使われているということもあります。まわりの友だちの話し方に、この独特のイントネーションが現れるかどうか、注意して聞いてみてください。

第12課 まだ袋に入っとるさけ、だんねやろ。

会 話

正信：頼まれとった雑誌^い買ーといたわ。

兵衛：おう、ありがと。金^{はろ}払てまうわ。いくらや？

正信：580 円や。

兵衛：おいや、これ 今月号と ちがうぞいや。

正信：ありゃー 先月号 買ーて来ても一たんかいや。

兵衛：よわったんな。どーするんやいや？／どうするんじゃいや？／どーするいや？

正信：まだ 袋に 入っとるさけ、だんねやろ／どむねーやろ。

替えんこして／替えことして もろてくるわいや。

こ と ば

- ◆ こー：買う
- ◆ はろー：払う
- ◆ よわる：困る
- ◆ だんね、どむね：問題ない。

共通語では

正信：頼まれていた雑誌を買っておいたよ。

兵衛：ああ、ありがとう。お金を払ってしまうよ。いくらだい？

正信：580 円だよ。

兵衛：おい、これは今月号とは違うよ。

正信：あらー、先月号を買ってきてしまったのかよ。

兵衛：困ったな。どーするんだ？

正信：まだ袋に入っているから、大丈夫だろう。

交換してもらってくるよ。

表 現

30. 「～とる」—動作の持続と結果の残存—

- | |
|---|
| (84) 昨日から 雪が 降 とる 。(昨日から雪が降っている。) |
| (85) この 冷蔵庫 こわれ とる よ。(この冷蔵庫は壊れているよ。) |

「～とる」は、何かの動きが続いていることを表したり、何か起こったことの結果がまだ残っていることを表します。共通語の「～ている」にあたる表現です。

31. 「～とく」—準備・措置—

- | |
|---|
| (86) 宿題は 早めに 終わら いとく 。(宿題は早めに終わらせておく。) |
| (87) 暑いし 窓あけ とく よ。(暑いから窓を開けておくよ。) |

「～とく」は、何かを前もってやることを表したり、何かをそのままの状態にすることを表します。共通語の「～ておく」にあたる表現です。

32. 「～てもー」—残念・完了—

- | |
|--|
| (88) 宿題 やっ てもー てから 遊びね。(宿題をやってしまったから遊びなさい。) |
| (89) 窓ガラス 割っ てもー た。(窓ガラスを割ってしまった。) |

「～てもー」は、何か動作を終わらせることを表したり、残念な気持ちを表します。共通語の「～てしまう」にあたる表現です。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

とる	とく	てもー
----	----	-----

- (1) このテキスト、変わっ_____ね。
- (2) 電話し_____間に、暗なっ_____た。
- (3) メールアドレスは既に聞い_____さけ、ゆいちゃんには私から連絡し_____わ。
- (4) みさき：この話、さくらには黙っ_____ようにって言われとったんやけど、つい言っ_____たわ。
- さくら：なーも、聞かんだ／聞かなんだことにし_____。

練習2 次の文を大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

- (1) 雪が降っているよ。
→ ()
- (2) あそこに財布さいふが落ちている。
→ ()
- (3) 本を読んでいたら、眠くなってしまった。
→ ()
- (4) 汚れてしまっていたあの体操服、洗っておいたよ。
→ ()

大聖寺ことば豆知識⑫

新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）

テレビが普及した 1960 年代以降、日本の方言は若い世代を中心に急速に衰退し、共通語化が進んできました。

しかし、1980 年代頃からは、方言の衰退を惜しむ人や、方言を地方の文化として大切にしなければならないといった意見をもつ人が増えてきて、方言の見直しが盛んです。そして、そうした見直しの影響もあって、地域では方言が共通語化するばかりでなく、新しい方言も生まれています。

たとえば金沢で新しい方言が生まれる場合、そこでは二つのケースが見られます。一つは、共通語とは無関係に金沢で独自に新しい方言が生まれる場合、もう一つは、金沢ことばが共通語の影響を受けて、金沢ことばと共通語の両方が混ざったような中間的な形ができる場合です。新しい方言の中でも前者のようなものを「新方言」、後者のようなものを「ネオ方言」と呼んでいます。

金沢ことばの「新方言」の例としては、この本の第 3 課で取り上げた「げん」、そしてそれがもとで生まれた「～ねん、～てん、～れん」などが代表的なものです。年配の人たちが使っていた「いじくらしい」が変化した「いじっかしい」もそうです。

一方、「ネオ方言」の例には、「書かんかった」「見んかった」などの「～んかった」の形、「行けんくなった」「見れんくなった」などの「～んくなった」などがあります。もともとは「書かなんだ」でしたが、共通語の「書かなかった」の影響を受けて、否定の言い方の方言形「書かん」と「～かった」が混ざってできた形です。「行けんくなった」も方言形「行けん」と共通語「行けなくかった」の「～くなった」が混ざった形です。

「ネオ方言」は、方言の勢いが強いと言われる関西地方や九州地方の方言が変化するとき、全面的な共通語化に抵抗して一部だけ共通語を受け入れた形として生まれやすいと言われます。いずれにしても、「新方言」や「ネオ方言」が今も生まれるというのは、その方言にまだ元気があるということだと思うのです。金沢のことばがただ共通語化するだけでなく、これからも新しい方言を生み出すためには、みなさんのような若い人たちが方言に自信をもち、愛着をもつことが必要なのです。

第13課 みそ汁こぼいても一た。

会 話

たかし：あー。まにおあんぞいや。なんで 起こいてくれなんだんや。
ふみこ：なんべんも 起こいたがいね。
たかし：嘘やろ。なーも 気あつかなんだぞいや。
ふみこ：まあ、はよ 朝ご飯 食べまっしや。
たかし：あー。みそ汁 こぼいても一た。
ふみこ：あらー ちゃわちゃわと。ちーんと しとんまっしま、いじっかしい。
たかし：ほんなことゆーて、遅刻したら どーするんやいや／どうするんじやいや。
ふみこ：かさだかな、ちょっこしぐれー 遅れても どむねわいね。

こ と ば

- ◆ まにおあん：間に合わない。
- ◆ なんべん：何回。
- ◆ ちゃわちゃわ：落ち着きがないさま。
- ◆ ちーんと：おとなしく。行儀良く。
- ◆ いじっかしい：うっとうしい。
- ◆ かさだか：大げさ。
- ◆ だんない：大丈夫。平気。問題ない。

共通語では

たかし：ああ。間に合わないよ。どうして起こしてくれないんだよー。
ふみこ：何回も起こしたよ。
たかし：嘘だろ。何も気がつかなかったよ。
ふみこ：まあ、早く朝ご飯を食べなさい。
たかし：ああ。みそ汁こぼしてしまった。
ふみこ：あらあ、落ち着きがないね。おとなしくしてなさいよ、うっとうしい。
たかし：そんなこと言って、遅刻したらどうするんだい。
ふみこ：大げさな、少しくらい遅れても大丈夫だよ。

表 現

33. 「出いた」 — サ行五段動詞のイ音便化 —

- (90) ゴミならもう**出いた**わ。(ゴミならもう出したよ。)
 (91) 財布**落**といても一た。(財布を落としてしまった。)

「出す」「落とす」の「～た」という形は、共通語では「出した」「落とした」ですが、大聖寺ことばでは「出いた」「落といた」となります。しかし、「貸す」「押す」などは共通語と同じ「貸した」「押した」です。

最近では共通語の影響をうけて、「出す」「落とす」であっても共通語と同じ「出した」「落とした」と言うことが増えているようです。

イ音便化しやすい動詞	イ音便化しにくい動詞
ほいた (干した)	たした (足した)
もやいた (燃やした)	むした (蒸した)
かくいた (隠した)	なした (為した)
たやいた (絶やした)	けした (消した)
こぼいた (こぼした)	こした (越した)
こわいた (壊した)	ふした (伏した)
はないた (離した)	めした (召した)
うついた (写した)	よした (止した)
おこいた (起こした)	たやした (絶やした)
さがいた (探した)	ちらした (散らした)
すまいた (すました)	ねざした (根ざした)
ずらいた (ずらした)	もうした (申した)
ねざいた (根ざした)	こらした (凝らした) など
ちらいた (散らした)	
たらいた (垂らした)	
なかいた (泣かした)	
むいた (蒸した) など	

練習問題

練習1 次の下線部を例のように大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

例：机の中を全部探した。 → （ さがいた ）

(1) 小さい子を泣かしたらだちゃかんのやぞ。

→ （ ）

(2) 明日の朝、5時に起こして。

→ （ ）

(3) あとで見るし、テーブルの上に出しておいて。

→ （ ）

(4) 見つからんように、はよ隠して！

→ （ ）

練習2 次の下線部を大聖寺（自分の町）のことばに変えてみましょう。

(1) はるか：ここに置いといた封筒、見なんだ？探しても探してもないんやけど。

→ （ ）

母：あ、ほの 封筒やったら ごみに 出したかも知れん。

→ （ ）

はるか：えー！

(2) ななみ：昨日、家で 干したばかりの 布団の 上に お茶 こぼしても一たうえ。

→ （ ） → （ ）

ももか：ほーなん！？

大聖寺ことば豆知識⑬

てんぼな

「よんべの 火事あ てんぼなもんやったんねー」

「おいね、おとろっしや。燃えるのあ てんぼに 早かったさけ、びっくりしたぞいね。」

これは、昨晚、近くであった火事を見て、その時の火事の様子を「大変だった」「大変驚いた」と話し合っている場面の会話です。

普通、大聖寺で「てんぼな」「てんぼに」を用いる場合は、「大変な～」とか「非情に～」とか「沢山～」などという、「びっくりするほど、程度がはなはだしい」といった意味で使われることが殆どですが、以下のような場合は、先の「驚くほど程度がはなはだしい」という意味を基本にしながらも、微妙に異なるさまざまなニュアンスで使われる例をあげてみました。

(ひどいことを言ったり、したりする) もっと気のえ一人かと思ったら、てんぼな人やんねー。

(びっくりするような身なりや危険なことをする) あの人あときどきてんぼなことしてるんで、よわってまう。

(人を傷つけたり、馬鹿にしたようなことを言う) そんにてんぼなこと言わんといて。

(朝、窓を開けたら、ものすごい積雪量だった) あらー、てんぼな雪やんね。

(車が急発進したり、危険な運転をするのを見て) いやー、てんぼな運転してるんな。

最近若い人の間では、この「てんぼな」「てんぼに」の言い方はあまり使われなくなり、代わって、共通語そのままの「すごーい」「すげー」「すっごく」などの言い方や流行語を受け入れた「メッチャ～」という言い方をよく聞きます。

付録1：石川の方言と大聖寺ことば一概説ー ちょっこり難しいんやけど、読んでみねー！

1. 全国の方言から見た石川の方言の位置

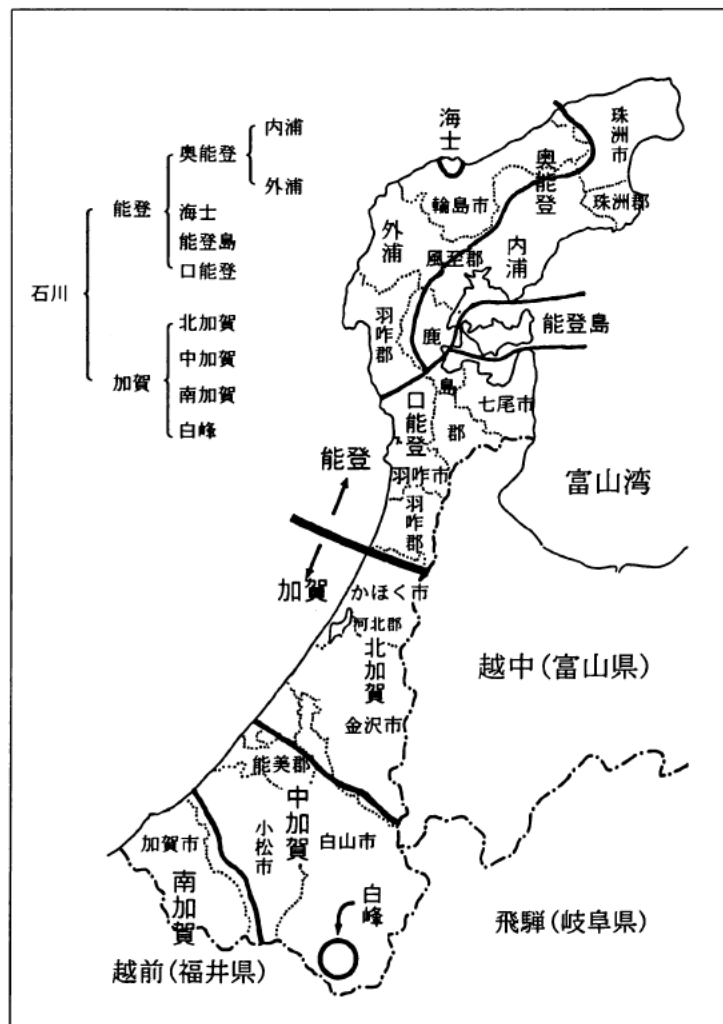
日本の方言を、共通することばの特徴によって大きく分けると、まず本土方言と琉球方言の二つに分かれます。そして、九州よりも北の本土方言は東部方言、西部方言、九州方言の三つに分けるのが一般的です。金沢ことばを含む石川県の方言は、新潟県の佐渡、富山県、福井県嶺北地方の方言とともに北陸方言としてまとめられ、そのうちの西部方言に属します。このことは、北陸方言が、かつての中央語地域であった近畿地方の方言の影響を強く受け続けてきたことを示すものです。中でも、オル（いる）、カカ_ン（書かない）、イカ_ナンダ（行かなかった）、コータ（買った）、ア_コナル（赤くなる）、アメ_セ（雨だ）、フットル（降っている）、フル_サカイ（降るから）などの文法的特徴における近畿方言との共通性がそのことをよく示しています。

石川県内の方言は、その違いの大きさから、北の能登の方言（羽咋郡から北）と南の加賀の方言（かほく市から南）に大きく分けられますが、加賀の方言はさらに、かほく市以南で手取川以北の金沢市、野々市町、旧松任市を中心とした北加賀方言と、手取川以南の白山市（旧鶴来町を含む）能美市、小松市を中心とした中加賀方言と、加賀市の南加賀方言の三つに分けることができます。

2. 加賀の方言

加賀地方の方言は、京都の言葉が北国街道沿いに福井県を経由して伝わったものを基礎としています。北加賀方言は加賀百万石の城下町として独自の方言をはぐくんだ金沢ことばの影響を強く受けていて、城下町の複雑な社会構造や京都との直接の交渉を背景とした「～マサル」などの敬語表現、そしてあいさつ表現

<石川県の方言区画図>



や語いなどに特色があります。

加賀市を中心とする南加賀方言は、北加賀・中加賀方言でカクマサル・カクマッシャル（お書きになる）、シマッシ（しなさい）、イクガヤ（行くのだ）となるところが、カキナル、シネー、イクンヤとなるなど、福井県の嶺北方言と共通する特徴が多くなります。

小松市方言を中心とする中加賀方言は、南加賀方言に連続する特徴ももつと同時に、金沢ことばを中心とする北加賀方言の影響も受け、両方の中間的性格を示します。なお、中加賀方言のうちでも白山麓の方言は、ゴザル（「居る、行く、来る」の尊敬語）などの歴史的に古いことばも見られ、中でも白峰方言はギラ（私）、ノイノ（さようなら）、～チョル・～ジョル（～ている）、ノニダ（飲んだ）など、ほかの加賀地方の方言とは異なる特徴や古い状態を残したものが多く、言語の島として研究者からも注目されてきました。

加賀地方のアクセントはおおよそ京阪式アクセントに近い姿を示し、大まかには北加賀方言と南加賀方言でタイプが違うものの、2拍名詞を例にとると、2拍目の音節の音声的条件（子音の有声・無声、母音の広狭）に影響されるという複雑な規則がある点で共通しています。

最近では、加賀地方の方言も、若い世代を中心に伝統的な方言の衰退と共通語化が確実に進んでいます。しかし、そんな中で今も根強く受け継がれている方言もあり、また、イーゲンテ（いいんだよ）の「～ゲン」のように、伝統的方言が変化した方言、イケンクナッタ（行けなくなった）のように共通語の影響を受けて生まれた方言と共通語の中間的な方言などの新しい方言も生まれています。

加賀の方言の地域差は今後も少しずつ少なくなり、地方共通語としての役割を担う金沢市の方言に似た姿に近づいていくことが予想されます。

3. 能登の方言

能登の方言は、加賀の方言と同じように、特に文法的特徴について近畿方言との共通性が多く見られます。県内の伝統的方言の分布では、かほく市と羽咋郡の境あたりに、ウラーオラ（私）、ギャワズーギャット（蛙）、カザーフガ・ホガ（匂い）、ナーンベッチャ（いいえ）、クドイーカライ（塩辛い）などの境界線が集中しており、そこを境に南の加賀の方言と北の能登の方言にまず大きく分けられます（－を挟んで左が加賀の方言形で右が能登の方言形です）。

能登の方言は、さらに口能登方言と奥能登方言に分けられます。口能登方言は富山県方言、奥能登方言は新潟県の佐渡方言との共通性が多く見られます。奥能登方言は輪島市を中心とした外浦方言と、富山湾側の内浦方言に分けることができます。江戸時代に九州の福岡からの集団移住があったと伝えられる輪島市海士（あま）町の方言は、以前は九州方言的特徴が認められるなど、輪島市の周囲の方言とは違っていました。

能登の方言分布を見ると、かつての中央語地域である近畿地方からの語の伝播が、福井県から街道沿いに加賀地方を経由して陸路で能登地方に伝わるという基本的なパターンのほか、金沢を中心とする加賀地方を経由せずに、福井県から直接海路で能登に伝播したと思われるものがあります。前者の場合は、一般に能登の方言は加賀の方言に比べて歴史的に古いものであり、一方、後者の場合には、海路で伝わった能登の方言の方が加賀の方言よりも歴史的に新しいと思われる例もあります。金沢を中心とした加賀地方では使われない「ありが

とう」のオーキニ（輪島市）、「つらら」のボーダレ（奥能登）などは、いずれも福井からの海上伝播によって能登に伝わった例と考えられます。能登半島先端部の珠洲の方言には、「～ノキャ」「～ワキャ」などの独特の文末表現が聞かれ、高年層では北陸方言には珍しい能力可能と条件可能の区別（書ケーウエル・着ーウエル＜能力可能＞ー書ケル・着ラレル＜状況可能＞）が存在します。

音声的特徴には、まず発音の面で、富山県沿岸部に続く口能登から奥能登の内浦地域の高年層方言に、シ・ス、ジ・ズ、チ・ツがそれぞれ同音となる東北方言のズーズー弁に似た発音が聞かれます。日本語の古い発音であるクッ・グッ、セ・ゼにあたるシェ（「へ」となる地域も）・ジェが広い範囲で聞かれ、イ段とエ段の混同（～ネく～に＞など）、ウ段とオ段の混同（オサギく兎＞など）も聞かれます。アクセントの分布は複雑です。大まかには口能登と奥能登（珠洲市を含む内浦）が京阪式アクセントで、京都の古いアクセントに似たものが聞かれます。奥能登でも外浦は京阪式が変化した曖昧なアクセント、能登島の一部には東京式アクセントも分布します。

4. 金沢ことば

狭い意味での金沢ことばとは、江戸時代に加賀百万石の城下町金沢で形成された、やや洗練されたことばをさします。従来、金沢ことばというと、お城の周辺の町屋、旅館、茶屋街などで使われることばだけを取り上げることが多かったのは、この考え方によるものです。

一方、現在の金沢ことばと言えば、金沢市の全域で使われていることばの総体をさして、広い意味での金沢ことばがこれにあたります。

金沢ことばは、加賀地方の方言を北加賀方言・中加賀方言・南加賀方言の三つに分けた場合の北加賀方言の中心的存在です。長く中央語であり続けた京都ことばが北国街道沿いに伝わったものを基礎としながら、そこにかつての城下町としての複雑な社会構造と京都との直接的交渉、さらに近代以降の北陸の中核都市としての性格が、周囲の加賀の方言とはやや一線を画する金沢言葉をも育んだと考えることができます。様々な階層、職種の人が混在した城下町では、人間関係を円滑にするための敬語表現や挨拶表現が一般的に発達しやすく、金沢ことばもまた例外ではありませんでした。オココロアリヤコソ、ヨーコソ オイデアソバセ（お心にかけていただいてありがとうございます、ようこそおいで下さいました）、アンヤトゴザイミス（ありがとうございます）、サッキ カエルマシタガヤ（さっき、お帰になりましたよ）、オイデマス（いらっしゃる）、ゴキミツァン（ご丁寧に、ありがとうございます）、オユルッシュ（よろしく）など、かつては豊富な敬語表現、挨拶表現が使われていましたが、現在では敬語助動詞「～マサル」の命令形にあたる「～マッシ」が「～なさい・～ましょう」に当たる優しい命令・勧誘の表現として、また、オイデマスが共通語意識で使われ続けているほかは、いずれもほとんど使われなくなっています。金沢ことばに特徴的な語いには、キンカンナマナマ（雪道が凍ってつるつるになった状態）、ゴッポ（下駄の歯の間にはさまった雪の固まり）、オカベ（豆腐）、ハベン（蒲鉾）など、金沢の風土や生活に根付いたものも少なくありませんが、これらもまた若い世代では使われなくなっています。

こうした狭い意味での金沢ことばの表現や語彙が衰退しつつある中で、金沢ことばは今

後、広い意味での金沢ことばとして、ほかの北加賀方言と共通する特徴をもとにしながら、～ゲン（～ネン・～レン・～テン）に代表されるような新しい方言の発信源として、共通語の影響も強く受けながら、石川県内の地方共通語としての役割を担っていくに違いありません。鶴来のことばは本来、こうした金沢ことばとは異なる中加賀方言的特徴を持っていましたが、最近の金沢のベッドタウン化とともに、ことばの面でも次第に金沢ことばに近づきつつあると考えることができます。

5. 大聖寺ことば

加賀市大聖寺のことばは、先の「石川県の方言区画図」（60 ページ）からもわかる通り、加賀方言の最南端に位置する南加賀方言の中心的存在です。かつて加賀藩の支藩大聖寺藩 10 万石の城下町であった大聖寺を中心に用いられる方言です。

その地理的位置から、大聖寺ことばは、中加賀方言、北加賀方言との共通性をベースとしながら、旧江沼郡山中町（現加賀市）の方言とともに、南に続く福井県嶺北方言と共通する特徴が少なくない点で中加賀方言（小松市）以北の加賀方言と区別されます。このことは、かつての中央語である京都ことばが北国街道沿いに北陸地方に伝播する過程で、福井県嶺北地方に及んだことばが、さらに石川県の南端である加賀市にまでは及んだが、そこで止まった状態のものがあることを示しています。

大聖寺ことばの加賀方言に似た特徴としては、アクセントが小松市を中心とする中加賀方言に似た京阪式に準ずるアクセントであることが挙げられます。福井県嶺北地方方言に見られるような連母音の融合もあまりありません。語彙や文法面でも南の福井県の嶺北方言よりも加賀方言と似たものが多く見られますが、「木の^{とげ}棘」のケン（小松以北はトゲ…以下括弧内は小松以北の方言形）、「舌」のへラ（ヘタ）、「^{ひざ}膝」のヒザンボ（ヒザブシ）、「がんもどき」のヒローズ・ヒロズ（ミーデラ）、「かぼちゃ」のカボチャ（ボブラ）のように、中加賀方言とは異なる方言形の分布も見られます。

一方、以下のものは福井県嶺北方言との共通点です。

- ・尊敬の敬語にナル敬語が使われる。

例) イキナルヤロ（いらっしゃるだろう）。イキナッタ（いらっしゃった）。

- ・丁寧な命令表現に終助詞「～ネ(一)」が使われる。→第7課参照

例) ユックリシテ イキネーネ（寄っていきなさい）。ハヨ シネー（早くしなさい）。

- ・準体助詞は「ガ」ではなく「ン」（「ノ」の変化）が使われる。

例) カゼ ヒーテモタンヤ（風邪をひいてしまったんだ）。ナニ ヨンドルンヤ（何を読んでいるんだ）。

なお、大聖寺が城下町であったことから、大聖寺ことばは周囲の農村部に比べれば敬語や挨拶表現が発達しやすかったと思われます。「ヨーコソ イラシテクデンシタ」（ようこそおいで下さいました）、「オヨロシューニ」（よろしく）などもその例でしょう。

このように、南加賀方言として福井の嶺北方言の影響も受けながら、小松以北の方言と一線を画していた大聖寺ことばですが、先にも述べたように、今後金沢ことばが石川県内の地方共通語としての役割を担っていくとすれば、少しずつ金沢ことばに近づいていくことになるのかもしれませんが。

付録２：同一例文の３世代（男女別）大聖寺ことば訳

※ここでは、同じ共通語の例文を、大聖寺町内在住の三世代６名に、それぞれが普段使っている大聖寺ことばに翻訳してもらったものです。大聖寺ことばの世代的变化と性差について観察するための一つの例として参考にいただければと思います。皆さんだったらどんな方言になるか考えてみましょう。

【共通語】

- (1) A：夏休みはどこへ行くんだ？
B：沖縄へ行くんだ。
- (2) A：夏休みはどこへ行っていたんだ？
B：沖縄へ行っていたんだ。
- (3) A：夏休みは何をするんだ？
B：海水浴するんだ。
- (4) A：へえ、夏休みも仕事なんだ？
B：そうなんだ、仕事なんだ。
- (5) 雨が降りそうだから行かないよ。
- (6) 悲しいから泣くんだよ。
- (7) 犯人は私ではないよ。
- (8) あれは犬ではない。
- (9) 呼んでいるのに返事もしない。
- (10) 来れば良かったのに。
- (11) あんなに約束したのに。
- (12) 約束は守らなくてはならない。
- (13) 全部食べなくてはならない。
- (14) 早くしろよ。（強く言うとき）
- (15) 少しも勉強しない。
- (16) 宿題しなかった。
- (17) 時計が動かなくなる。
- (18) テレビが映らなくなる。
- (19) 昨日は風呂に入らなかった。
- (20) 先生とは会わなかったよ。
- (21) うちに寄りなさいよ。（誘う感じ）
- (22) 時間はあるからゆっくり書きなさい。（やさしく）
- (23) 試験がんばりなさいよ。（やさしく）

【大聖寺ことば訳】

男性 (73 歳) 1932 年生まれ

- (1) A : 夏休みは どこへ 行くんじゃ？
B : 沖縄へ 行くんじゃ。
- (2) A : 夏休み どこ 行っとったんじゃ／行っとったんじゃい？
B : 沖縄 行っとったんじゃ／行っとったんや。
- (3) A : 夏休み なんしるんじゃ／なんしんじや？
B : 海水浴するんじゃ。
- (4) A : へえ、夏休みも 仕事なんか。
B : おいや、そーなんじゃ、仕事なんじゃ。
- (5) 雨が 降りそうやさけ 行かんぞ。
- (6) 悲しいさけ 泣くんじゃ／泣くんやわいや。
- (7) 犯人な わしんねーわいや／ねーぞ／ねーよ。
- (8) あれあ 犬んねーわいや。
- (9) 呼んどるんじゃに 返事せん。
- (10) 来れあ よかったんじゃに。
- (11) あんね 約束したんじゃに。
- (12) 約束あ 守らなえかん／守らんとえかん。
- (13) 全部 食わなえかん／食わんとえかんぞ。
- (14) はよ、せーや／せんかいや／せーま。
- (15) ちょっこりも 勉強せん／勉強しようとせん。
- (16) とーとか 宿題 せなんだ／せんた。
- (17) 時計 えのかんよーん なる。
- (18) テレビ 映らんように なる／映らんのになる。
- (19) きんのあ とうとう ゆー 入らなんだ／入らんだ。
- (20) 先生とあ 会わんだ／会わなんだ。
- (21) うちに 寄れいや／寄っていけや。
- (22) 時間 あるさけ／あるんじゃさけ ゆっくり 書けや／書くまっし。
- (23) 試験 がんばれや／がんばろぞ。

女性 (69 歳) 1936 年生まれ

- (1) A : 夏休みな どこへ 行きなるんや？
B : 沖縄へ 行くんや。
- (2) A : 夏休みな どこへ 行っとなったんや？
B : 沖縄へ 行っとったんや／行っとったげーね。
- (3) A : 夏休みな 何しなるんや／どうしなるんじゃ？
B : 海水浴 しょうと 思とるんや。
- (4) A : あらー、夏休みも 仕事なんけ？
B : おいね、仕事なんや／仕事なんやわいね。
- (5) 雨 降りそうやさけ／さき／さし 行かんね。
- (6) 悲しいさかい／さけ、泣くんや／泣くんやわいね。
- (7) 犯人は 私ん ないわいね。
- (8) あれあ 犬んねーわいね。
- (9) 呼んどるんやに／呼んどるんにやに 返事も せん。
- (10) 来れあ よかったんやに。
- (11) あんなに 約束したんやに。
- (12) 約束は 守らな いかんよ／えかんよ。
- (13) 全部 食べな いかんよ／えかんよ。
- (14) はよ しね／しねま／せんかいね。
- (15) ちょっこりも 勉強せん。
- (16) あーあ、宿題 せなんだ／しなんだ／せんた) 。
- (17) 時計あ 動かんようになる／いのかんようになる。
- (18) テレビあ 映らんよーんなる。
- (19) とうとう おゆ 入らなんだ／入らんだ。
- (20) 先生とあ 会わんだ／お会いせなんだ。
- (21) うち 寄っていきならんか／寄っていきねーね。
- (22) 時間 あるんやさけ ゆっくり 書きね。
- (23) 試験 がんばりねーよ／がんばりねーや。

男性（45歳）1961年生まれ

- (1) A：夏休みは どこ 行くんけ？
B：沖縄へ 行くんや。
- (2) A：夏休みは どこへ 行っとったんえ／
行っとったんけ。
B：沖縄へ 行っとったんや？
- (3) A：夏休みあ 何 しるんじゃ？
B：海水浴 行くんや。
- (4) A：へえ、夏休みも 仕事か／仕事なんかいいや？
B：おー／おいや そうなんやて。
- (5) 雨が 降りそうやさけ 行かんぞ。
- (6) 悲しさけ 泣くんじゃ。
- (7) 犯人は わしでねーぞ。
- (8) あれは 犬んねーわいや／犬んねーよ。
- (9) 呼んどるんやけど 返事もせん。
- (10) 来れあ 良かったじやに。
- (11) あんねも 約束したんやに。
- (12) 約束は 守らなけれあいかん。
- (13) 全部 食わないかん／食わんといかん。
- (14) はよ せー／せーまん。
- (15) ちょっこりも 勉強 せん。
- (16) 宿題 せなんだ／せんだ。
- (17) 時計あ 動かんようになつた。
- (18) テレビあ 映らんようになつた。
- (19) 昨日あ 風呂に 入らなんだ／入らんだ。
- (20) 先生とは 会わなんだ／会わんだ。
- (21) うちに 寄っていかんかいや／寄れーや。
- (22) 時間 あるさけ ゆっくり 書けよ。
- (23) 試験 がんばれーや。じゃまねーわいや。

女性（41歳）1964年生まれ

- (1) A：夏休み どこ 行くん？
B：沖縄 行くんや。
- (2) A：夏休み どこ 行っとんかった？
B：沖縄 行っとったんや／行っとったげーね。
- (3) A：夏休み 何 しるんや？
B：海水浴 しようと おもとるんや／しるつもりや。
- (4) A：あらー、夏休みも 仕事なんけ／仕事か？
B：おいね、仕事なんや／仕事やげーね。
- (5) 雨 降りそうやさけ／降りそうやし 行かんわ。
- (6) 悲しいさけ／悲しいし 泣くんや／泣くんやがいね。
- (7) 犯人は 私んねーぞね／私んねーぞいね。
- (8) あれあ 犬んねーわね／犬んなんかんねーぞいね。
- (9) 呼んどるんやに 返事もせん。
- (10) 来れば よかったにんね／よかったに。
- (11) あんなに 約束したんに。
- (12) 約束 守らなえかんね。
- (13) 全部 食べないかんよ／食べんといかんがいね／食べねーね。
- (14) はよ せんかいね／しねま。
- (15) ちょっこりも／ちょっこしも 勉強せんわ。
- (16) 宿題 せなんだわ／せんだ。
- (17) 時計あ 動かんよーん なる。
- (18) テレビ 映らんよーん なつた。
- (19) 昨日あ、風呂に 入らなんだわ／入らんだわ。
- (20) 先生とは お会いせなんだよ／お会いせんだよ。
- (21) うちに 寄っていかんか／寄っていきね／寄ってかんけーね。
- (22) 時間な 十分 あるさけ ゆっくり 書きね／書きねーね。
- (23) 試験 がんばんね 応援しとるぞ。

男性（25歳）1980年生まれ

- (1) A：夏休み どこか 行くんか？
B：沖縄 行くんや。
- (2) A：夏休み どこ 行っとったんじえー？
B：沖縄 行っとったんや。おもっしえかつた
- (3) A：夏休み 何するんや／しとんや？
B：海水浴に 行くんや。
- (4) A：へえ、夏休みも 仕事なんか？
B：そーや／ほーや、仕事 せないかんのや。
- (5) 雨 降りそうやし 行かんわ。
- (6) 悲しいし 泣くんやうえ／泣くんやつて。
- (7) 犯人は 俺で ないよ／ねーよ／ねーって。
- (8) ありゃ 犬ん ない／ねーて／ねーわいや。
- (9) 何回も 呼んどるのに 返事も せん。
- (10) 来れあ よかったのに。
- (11) あっらけ 約束 したのに。
- (12) 約束は 守らな だめや。
- (13) 全部 食べな いかんよ。
- (14) はよ せーま／せーまん。
- (15) なーも 勉強 せんぞ／しとらんぞ。
- (16) 宿題 せなんだ／せんた。
- (17) 時計あ 動かんようにな。る。
- (18) テレビが 映らんようにな。る。
- (19) 昨日あ、とうとう 風呂に 入らんかった／入らなんだ／入らんだ。
- (20) 先生と 会わんだよ／会わんだうえ。
- (21) うちに 寄って行けや／寄っていけよ。
- (22) 時間 あっさけ ゆっくり 書きあええぞ。
- (23) 試験 がんばれや。心配いらんぞ。

女性（26歳）1979年生まれ

- (1) A：夏休み どこ 行くんや？
B：沖縄に 行くんや。
- (2) A：夏休み どこ 行っとったんや／行っとったんやいね？
B：沖縄に 行っとったんや。よかったよ。
- (3) A：夏休み 何 するんや？
B：海水浴 するんや。
- (4) A：えーつ、夏休みも 仕事なんけ？
B：そうなんや、仕事なんやて。
- (5) 雨 降りそうやし 行かんわ。
- (6) 悲しいし 泣くんやよ。
- (7) 犯人は 私でないよ／私んねーよ。
- (8) あれは 犬で ない／犬とちがう。
- (9) 何べんも 呼んどるのに／呼んどるけど 返事もせん。
- (10) 来れあ よかったのに／よかったんに。
- (11) あんなに 約束したのに。
- (12) 約束は 守らないかんよ。
- (13) 全部 食べないかんよ。
- (14) 早よ してまん。
- (15) ちよつとも 勉強 せんとおる。
- (16) 宿題 せんかった／せんた。
- (17) 時計が 動かんようにな。る。
- (18) テレビが 映らんようにな。る。
- (19) 昨日あ お風呂に 入らんかった／入らなんだ。
- (20) 先生とは 会わんかったよ／会わん。
- (21) うち 寄って かんか。
- (22) 時間あるし ゆっくり 書かんか／書かんけ／書けあいいよ。
- (23) 試験 がんばってね。

◇石川の方言（大聖寺ことば）について学ぶための参考文献◇

※ここでは、1970年代以降のもので、今も公共図書館等で見ることのできそうなものを中心に、石川の方言について参考になりそうなものを発行年順に紹介します。

- 川本栄一郎（1978）「加賀市の方言」『加賀市史 通史 上巻』加賀市役所
- 川本栄一郎（1983）「石川県の方言」『講座方言学6 中部地方の方言』国書刊行会
- 志受俊孝（1983）『金沢の方言—金沢弁のいろいろ—』北国出版社
- 島田昌彦（1989）「金沢のことば」『金沢市史（現代編）続編』金沢市
- 川本栄一郎（1992）「石川県方言」『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 加藤和夫（1995）「隠れた方言コンプレックス」『変容する日本の方言』大修館書店
- 北國新聞社編集局編（加藤和夫編集協力）（1995）『頑張りまっし金沢ことば』北國新聞社
- 島田昌彦（1998）『加賀城下町の言葉』能登印刷出版部
- 加藤和夫（1999）『ビデオ「金沢ことば」の解説』金沢市教育委員会
- 加藤和夫（1999）「日本の方言探訪⑤ 石川編」『月刊言語』1999年5月号、大修館書店
- 佐藤和之・米田正人編著（1999）『どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ』大修館書店（加藤和夫ほか10名執筆）
- 加藤和夫（2000）「金沢方言に見る『方言進化論』—方言は本当に衰退しているのか—」『北國文華』第5号 北國新聞社
- 加藤和夫（2001a）「北陸方言のオノマトペ—道がキンカンナマナマやじー—」『月刊言語』2001年8月号 大修館書店
- 加藤和夫（2001b）「近畿に共通する方言」『月刊北國アクタス』2001年11月号 北國新聞社
- 加藤和夫（2002）「日本海側の雪のことば—北陸地方の雪にまつわることば—」『日本語学』2002年1月号 明治書院
- 加藤和夫（2003a）「〈小事典〉ふるさとのことば 石川県」『月刊言語』2003年1月号 大修館書店
- 加藤和夫（2003b）「北陸人の方言意識を探る—コンプレックスからの脱却をめざして—」『北國文華』第15号 北國新聞社
- 加藤和夫（2003c）「今も生きている金沢ことば（上）」『おもしろ金沢学』北國新聞社
- 前田武輝（2003）「今も生きている金沢ことば（下）」『おもしろ金沢学』北國新聞社
- 新田哲夫（2004）「石川県金沢方言のギャクとその周辺」『日本海沿岸の地域性とことば』桂書房
- 加藤和夫（2004）「加賀の方言」「金沢言葉」「能登の方言」『書府太郎（上巻）石川県大百科事典 改訂版』北國新聞社
- 加藤和夫監修（2005）『〈試作版〉みんなで学ぼう！金沢ことば』自家版
- 加藤和夫監修（2005）『新 頑張りまっし金沢ことば』北國新聞社

※図書、論文以外で参考になりそうなもの

- ・金沢市教育委員会（1996・1997・1998）『ビデオ金沢ことば』（全3巻）金沢市教育委員会
*各巻15～20程度で金沢ことばが映像として記録されています。加藤が執筆した解説書付きです。
- ・「石川県ことばライブラリー」 *2003年、石川県立生涯学習センター1階に設置されました。全国の方言や金沢ことばを含む石川県内の方言についてパソコンで楽しく学べます。石川県の方言については「いし

かわの方言会話（金沢方言－珠洲方言対照）、「いしかわの方言辞典」「いしかわの方言たたきゲーム」があり、加藤が監修しています。現在は、石川県庁最上階の展望フロアーに移設されています。

- ・「金沢の方言」 (<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/hougen/>) *金沢市の HP「いいねっと金沢」におさめられています。

◇方言について学ぶための参考文献◇

※ここでは、石川の方言だけでなく、全国の方言について学ぶための入門的参考文献を挙げておきます。

柴田武（1988）『生きている日本語』、講談社学術文庫

尚学図書編（1989）『日本方言大辞典』（全3巻）、小学館 *加藤も下巻巻末の「音韻総覧」を分担執筆しています。

河出書房新社（1990）『ことば読本 方言と共通語』、河出書房新社

佐藤亮一監修（1990）『郷土の研究 方言をしらべよう』（全10巻）、福武書店

櫻本喜徳（1991）『おもしろ国語ゼミナール⁴ 全国方言たんけん』、ポプラ社

方言資料研究会編（1994）『北から南 方言ものしり事典』、啓明書房

すぎもとつとむ（1995）『方言風土記』雄山閣出版

佐藤亮一監修（1997）『日本の方言大研究』（全7巻）、ポプラ社

川崎洋編（1998）『日本方言詩集』、思潮社

江端義夫・加藤正信・本堂寛編（1998）『最新ひと目でわかる 全国方言一覽辞典』学研

三井はるみ監修（1998）『まんが方言なんでも事典』金の星社

杉本つとむ監修（1998）『クイズでわかる方言しらべ事典』学研

ハイパープレス（2000）『お国ことばのふしぎ大事典』青春出版社

佐藤亮一ほか編（2000）『NHK サービスセンターCD 教材 日本の方言』学研

佐藤亮一編（2002）『都道府県別 全国方言小辞典』三省堂 *加藤が石川・福井の執筆を担当

佐藤亮一監修（2002）『お国ことばを知る方言の地図帳』小学館 *加藤も7人の共著者の一人です

真田信治（2002）『方言の日本地図 ことばの旅』講談社＋α新書

真田信治（2005）『都道府県別 気持ち伝わる名方言 141』講談社＋α新書

国立国語研究所編（2003）『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差－方言は今－』財務省印刷局

井上史雄・吉岡泰夫監修（2003・2004）『調べてみよう暮らしのことば』（全7巻）ゆまに書房

佐藤亮一監修・小学館辞典編集部編（2004）『標準語引き 日本方言辞典』小学館

真田信治（2005）『都道府県別 気持ち伝わる名方言 141』講談社＋α新書

NHK 放送文化研究所監修（2005）『NHK21 世紀に残したい ふるさと日本のことば』（全6巻）学研

※参考 WEB ページ

「ふるさと日本のことば」 (<http://www.nhk.or.jp/a-room/kotoba/>) *2000 年4月から1年間、NHKで放送された47都道府県の方言の映像による記録の一部（音声付き）を見ることができます。

「ふるさとの方言」 (<http://nlp.nagaokaut.ac.jp/hougen/>) *全国のたくさんの方言 WEB ページを見ることができます。

「全国方言 WEB ほべりぐ」 (<http://hougen.atok.com/>) *各地の方言による文章作成を容易にした話し言葉対応辞書をおさめた ATOK を作成しているジャストシステムが運営しています。

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)
課題番号 17520295
研究成果報告書

現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究

研究代表者 金沢大学・教育学部教授 加藤 和夫

研究協力者 野田 浩

平成 17 (2005) 年度 700,000 円

日本学術振興会 科学研究費補助金 研究成果報告書

〈方言学習教材シリーズ2〉

みんなで学ぼう！大聖寺ことば

監修：加藤 和夫（金沢大学教授）

執筆：加藤 和夫

野田 浩

2006（平成 18）年 3 月 31 日発行

非売品

連絡先：金沢大学教育学部国語教育講座（日本語学）

〒920-1192 石川県金沢市角間町

電話：076-264-5538 Fax：076-234-4101

E-mail：kkato@ed.kanazawa-u.ac.jp

URL：http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~kkato/

印刷・製本：田中昭文堂印刷株式会社